



613-000237 Rev.A 050901

CentreCOM EG2004TX-BRI

# アドミニストレーターマニュアル

アライドテレシス株式会社



---

# 目次

1章 はじめに.....	6
1-1 最新のファームウェアについて.....	6
1-2 マニュアルの構成.....	6
1-3 表記について.....	6
2章 設定を行う前に.....	7
2-1 パソコンを本製品に接続する.....	7
2-2 パソコンのIPアドレスを設定する.....	8
Windows XPの場合.....	8
Windows 2000の場合.....	9
Windows 95/98/Meの場合.....	10
2-3 パソコンのIPアドレスを確認する.....	11
Windows 2000/XPの場合.....	11
Windows 95/98/Meの場合.....	12
2-4 パソコンのIPアドレスを再取得する.....	13
Windows 2000/XPの場合.....	13
Windows 95/98/Meの場合.....	14
3章 接続と設定例.....	15
3-1 接続に関する注意点.....	15
3-2 設定に関する注意点.....	15
設置環境の注意点.....	15
3-3 基本接続.....	16
3-4 複数台接続.....	17
2台接続する場合.....	17
3台以上接続する場合.....	18
3-5 設定画面（トップページ）.....	19
3-6 設定例.....	21
3-7 簡単設定.....	22
① WANポートの設定.....	23
② ISDNポートの設定.....	24
③ IP電話設定.....	25
④ 市外局番の設定.....	25
⑤ ユーザコードの設定.....	26

---

---

4章 IP電話の設定	27
4-1 基本設定	27
① ISDNの設定	28
② 端末設定	29
③ IP電話設定	30
4-2 IP電話設定	31
① 設定モード選択	33
② サーバ設定	33
③ SIPプロトコル設定	34
④ ISDN-SIP対応コード	36
⑤ 機能設定	37
⑥ 番号ルール設定	38
⑦ 音声設定	38
4-3 電話番号設定	39
① 番号情報の設定	40
② 番号ルールの設定	41
4-4 迂回設定	43
4-5 迂回番号の設定	44
4-6 ダイヤルアウトの設定	45
4-7 番号ルール設定例	46
4-8 発信付加プレフィックスの設定	54
4-9 SIP着信拒否番号の設定	55
4-10 ISDN着信拒否番号の設定	56
5章 ルータ機能の設定	57
5-1 WANポートの設定	57
5-2 LANポートの設定	60
5-3 DHCPサーバの設定	61
5-4 プロキシDNSの設定	62
5-5 SNMPの設定	63
5-6 NATの設定（静的IPマスカレード）	64
5-7 IPフィルタリングの設定	65
5-8 QoSの設定	66
5-9 ダイナミックDNSの設定	67
5-10 スタティックルートの設定	68
5-11 マルチセッション時のルーティング設定	69

---

---

6章 管理機能.....	70
6-1 複数台接続の設定.....	70
6-2 PINGテスト.....	71
6-3 現在時刻の設定.....	72
6-4 時刻同期サーバの設定.....	73
6-5 ファームの自動アップデート（未サポート）.....	74
6-6 ファームの手動アップデート.....	75
6-7 設定のバックアップ.....	76
6-8 設定のリストア.....	77
6-9 設定の初期化.....	78
7章 設定情報を確認する.....	79
7-1 ルータ設定情報の確認.....	79
7-2 IP電話設定情報の確認.....	81
7-3 サーバ接続状況の確認.....	82
7-4 通話履歴の確認.....	83
7-5 PPPoE接続状態の確認.....	85
7-6 ISDN情報の確認.....	86
7-7 ISDN通信履歴の確認.....	87
7-8 機器情報の確認.....	88

---

## 1章 はじめに

この度は、CentreCOM EG2004TX-BRI をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

CentreCOM EG2004TX-BRI（以下本製品）は、ブロードバンド回線を経由して最大4チャンネルのVoIP回線確保するエンタープライズ・VoIPゲートウェイです。現在お使いのビジネスホン主装置（PBX）に接続することにより、通話回線のIP化をはかり、既存の通話環境のまま通話コストを低減します。

### 1-1 最新のファームウェアについて

弊社は、改良のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは弊社Webページから入手してください。なお、最新のファームウェアのご利用の際には、弊社Webページに掲載されているリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>

### 1-2 マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3冊で構成されています。

#### アドミニストレーターマニュアル（本書）

本製品の設置業者や管理者を対象にしたマニュアルです。

本書は、接続や設定の方法、ファームウェアの更新、工場出荷時設定への初期化や再起動について記載されています。

本書は、弊社Webページにて提供いたします（印刷物として、本製品に付属していません）。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>

#### リリースノート

取扱説明書、アドミニストレーターマニュアルの補足や訂正、最新のファームウェアを使用する際の注意点など、現時点における最新の情報を記載した文書です。

弊社Webページにて提供いたします（印刷物として、本製品に付属していません。また、リリースノートが発行されていないこともあります）。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>

#### 取扱説明書

本製品を使用するユーザーを対象としたマニュアルです。

このマニュアルには、パッケージの内容、各部の名称とはたらき、設置における注意点、基本的なネットワーク構成における接続の手順、起動や停止の仕方、製品仕様、保証やユーザーサポートについて記載されています。このマニュアルは、本製品のパッケージに印刷物として付属しています。

### 1-3 表記について

#### アイコンや記号

このマニュアルで使用しているアイコンや記号には、次のような意味があります。



: 注意点です。操作の際はご注意ください。



: 禁止事項です。誤動作の原因になりますので絶対に行わないでください。

\*

: 必須入力項目です。必ず入力してください。



: デフォルト設定です。

#### 製品名

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM EG2004TX-BRI を意味します。

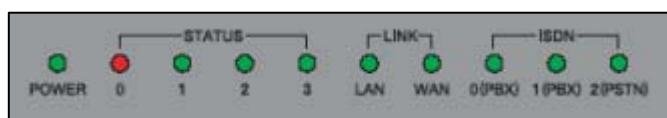
## 2章 設定を行う前に

この章では実際に本製品の設定を行う前の設定用パソコンの設定、接続について解説します。

### 2-1 パソコンを本製品に接続する

初期設定を行う為に、本製品のLANポートに設定用のパソコンを接続します。

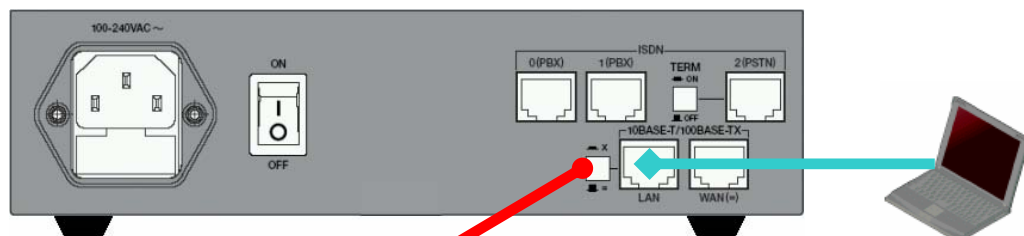
- ①接続する前に、パソコンのIPアドレスを『192.168.0.XXX』、サブネットマスクを『255.255.255.0』に設定します。  
※1. ゲートウェイの初期値アドレスは192.168.0.100なのでそれ以外を割り当てます。  
※2. パソコンのIPアドレス設定詳細は『2-2』を参照してください。
- ②本製品のLANポートに設定用パソコンを接続します。（下図参照）
- ③本製品の電源をONにします。
- ④本製品を起動すると『POWER』と『STATUS1 LED』が点灯します。



【前面図】

- ⑤パソコンが正常に接続されている場合『LAN LED』が点灯します。  
LEDが点灯しない場合は『MDI/MDI 切替スイッチ』をON/OFFして『LAN LED』が点灯するように調整してください。  
LEDが点灯しても接続が出来ない場合は、アドレスが正しく設定できていない恐れがあります。『2-2』を参照してアドレス設定を行ってください。

【背面図】



#### MDI/MDI-X 切替スイッチ

スイッチをOFF/ONすることで、ストレートケーブルとクロスケーブルを切り替えることができます

## 2-2 パソコンの IP アドレスを設定する

本製品にアクセスする為には、パソコンの IP アドレス設定が必要となります。

下記の手順で IP アドレスの自動取得、または固定 IP アドレスを割り当ててください。

### Windows XP の場合

ローカルエリア接続のウインドウを開きます。

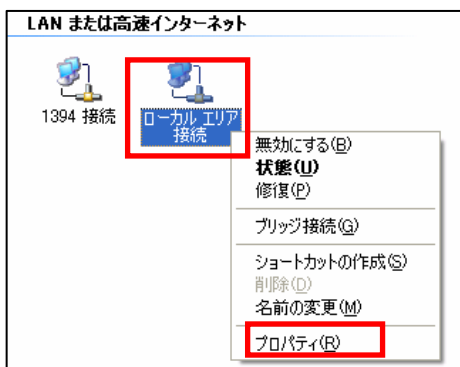
- ① 『スタート』 ボタンをクリックし、『コントロールパネル』 をクリックします。



- ② 『ネットワークとインターネット接続』 をクリックし、『ネットワーク接続』 をクリックします。

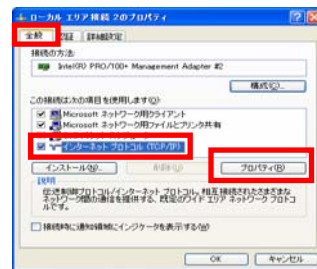


- ③ 『ローカルエリア接続』 にカーソルを合わせて右クリックし表示されるウインドウ内の『プロパティ』 をクリックします。



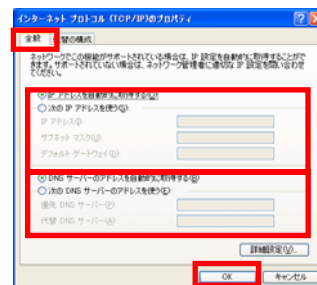
TCP/IP のウインドウを開きます。

- ④ 『全般』 タブから 『インターネットプロトコル (TCP/IP)』 を選択し 『プロパティ』 をクリックします。



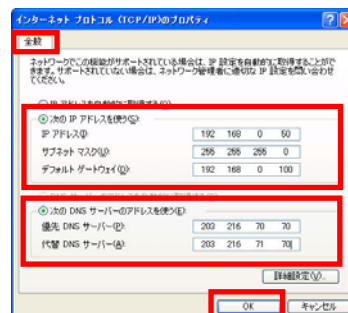
IP アドレスを自動で取得する場合

- ⑤ 『全般』 タブから 『IP アドレスを自動的に取得する』 と 『DNS サーバのアドレスを自動的に取得する』 を選択し 『OK』 ボタンをクリックします。



固定 IP アドレスを使用する場合

- ⑤ 『全般』 タブから 『次の IP アドレスを使う』 を選択し、『IP アドレス』、『サブネットマスク』、『デフォルトゲートウェイ』を入力します。
- ⑥ 『次の DNS サーバアドレスを使う』 を選択し、『優先 DNS サーバ』、『代替 DNS サーバ』にプロバイダの指定 DNS サーバを入力します。
- ⑦ 『OK』 ボタンをクリックします。

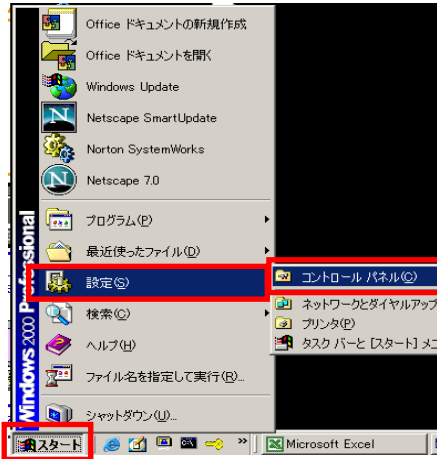




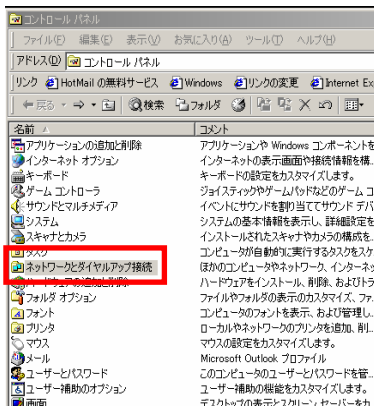
Windows 2000 の場合

ローカルエリア接続のウィンドウを開きます。

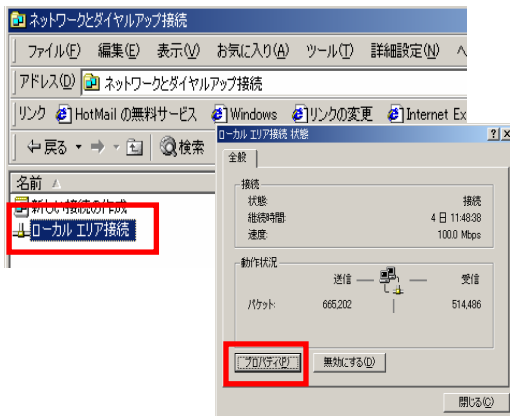
- ① 『スタート』 ボタンをクリックし、『設定』 から『コントロールパネル』 をクリックします。



- ② 『ネットワークとダイヤルアップ接続』 をダブルクリックします。

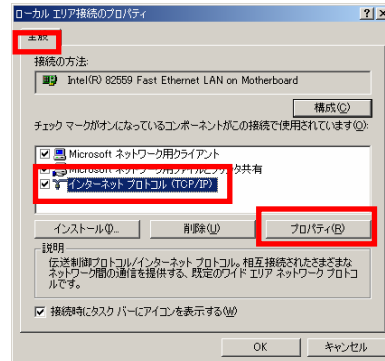


- ③ 『ローカルエリア接続』 をダブルクリックし『プロパティ』 をクリックします。



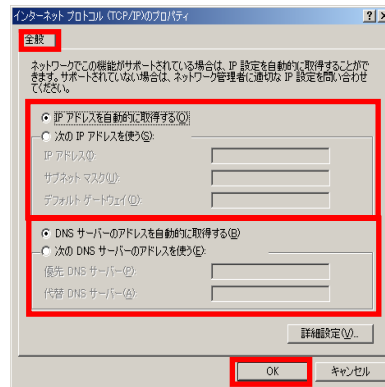
TCP/IP のウィンドウを開きます。

- ④ 『全般』 タブから『インターネットプロトコル(TCP/IP)』 を選択し『プロパティ』 をクリックします。



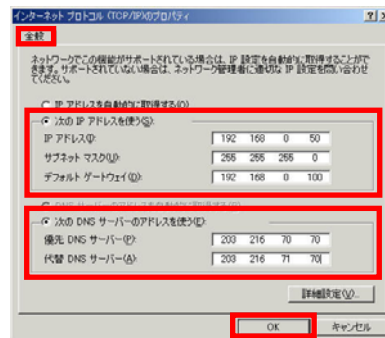
IP アドレスを自動で取得する場合

- ⑤ 『全般』 タブから『IP アドレスを自動的に取得する』 と『DNS サーバのアドレスを自動的に取得する』 を選択し『OK』 ボタンをクリックします。



固定 IP アドレスを使用する場合

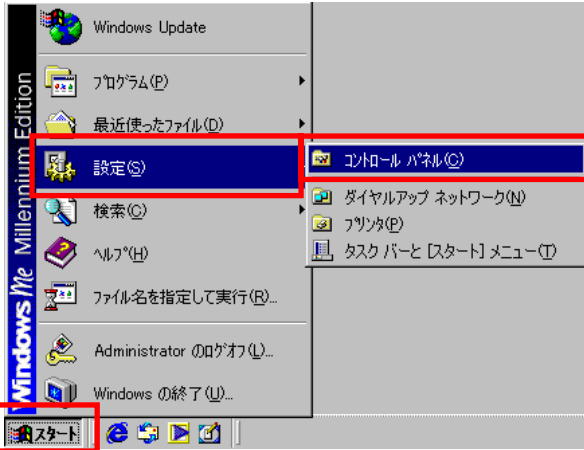
- ⑤ 『全般』 タブから『次の IP アドレスを使う』 を選択し、『IP アドレス』、『サブネットマスク』、『デフォルトゲートウェイ』 を入力します。
- ⑥ 次に『次の DNS サーバアドレスを使う』 を選択し、『優先 DNS サーバ』、『代替 DNS サーバ』 にプロバイダの指定 DNS サーバを入力します。
- ⑦ 『OK』 ボタンをクリックします。



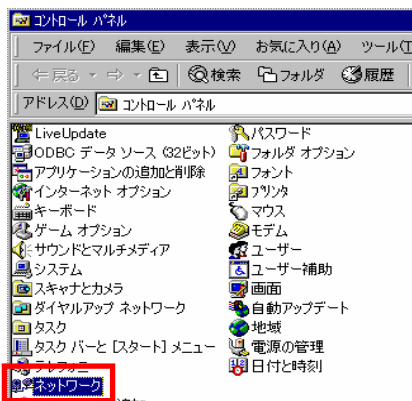
**Windows 95/98/Me の場合**

ローカルエリア接続のウィンドウを開きます。

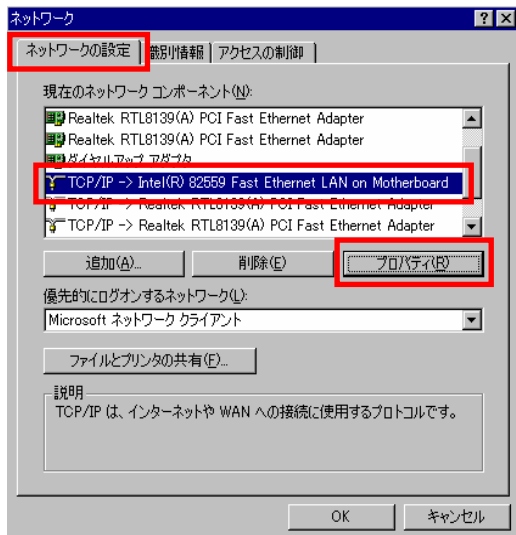
- ① 『スタート』 ボタンをクリックし、『設定』 から 『コントロールパネル』 をクリックします。



- ② 『ネットワーク』 をダブルクリックします。



- ③ 『ネットワークの設定』 タブから 『TCP/IP->Ethernet アダプタ名』 を選択し 『プロパティ』 をクリックします。  
※Ethernet アダプタ名はパソコンによって異なります。

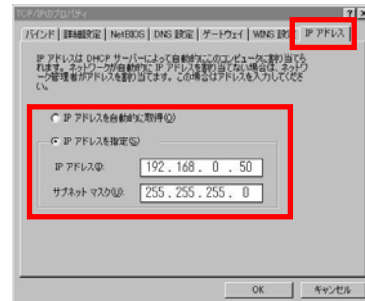


IP アドレスを自動で取得する場合

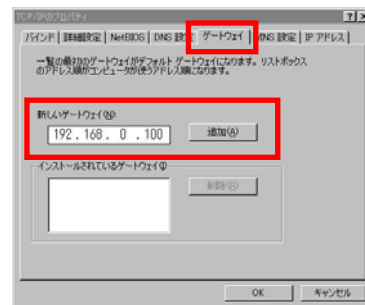
- ④ 『IP アドレス』 タブから 『IP アドレスを自動的に取得する』 を選択します。
- ⑤ 『ゲートウェイ』 タブには何も設定を入れません。
- ⑥ 『DNS 設定』 タブで 『DNS を使わない』 にチェックをいれます。
- ⑦ 『OK』 を選択して、パソコンを再起動します。

固定 IP アドレスを使用する場合

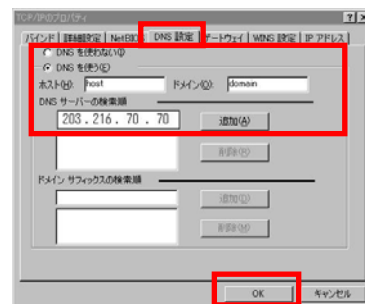
- ④ 『IP アドレス』 タブから 『IP アドレスを指定』 を選択し 『IP アドレス』、『サブネットマスク』 に値を入力します。



- ⑤ 『ゲートウェイ』 タブの 『新しいゲートウェイ』 に本製品の LAN 側 IP アドレスを入力し 『追加』 をクリックします。



- ⑥ 『DNS 設定』 タブから 『DNS を使う』 を選択し、『ホスト』、『ドメイン』、を入力し、『DNS サーバ』 にプロバイダの指定 DNS サーバを入力します。



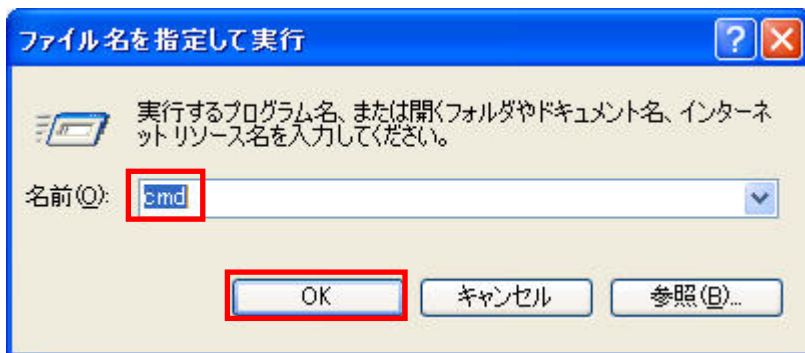
- ⑦ 『OK』 を選択して、パソコンを再起動します。

### 2-3 パソコンの IP アドレスを確認する

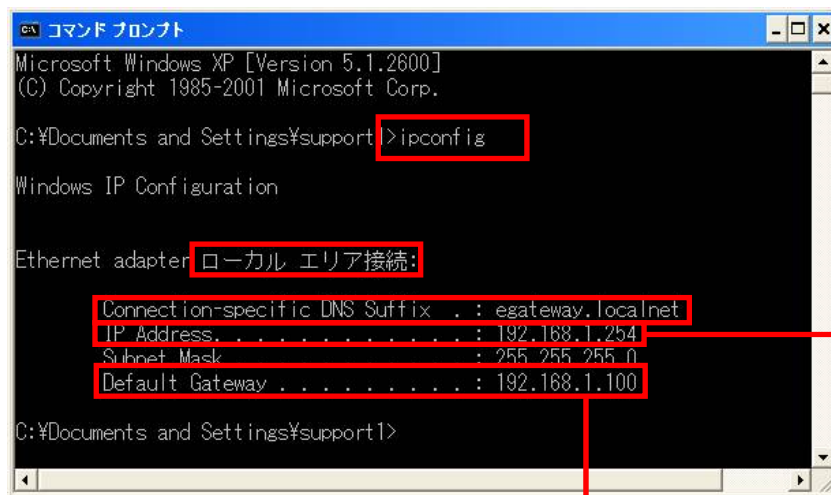
自動取得した IP アドレスや、指定した IP アドレスの確認を行います。

#### Windows 2000/XP の場合

- ① 『スタート』 から 『ファイル名を指定して実行』 を選択します。
- ② 『cmd』 と入力し、 『OK』 をクリックします。



- ③ 『ipconfig』 と入力します。
- ④ 『ローカルエリア接続』 に IP アドレスが正しく表示されていることをご確認ください。  
本製品から IP アドレスを自動で取得した場合、『Connection-specific DNS Suffix』に『egateway.localnet』が表示されます。

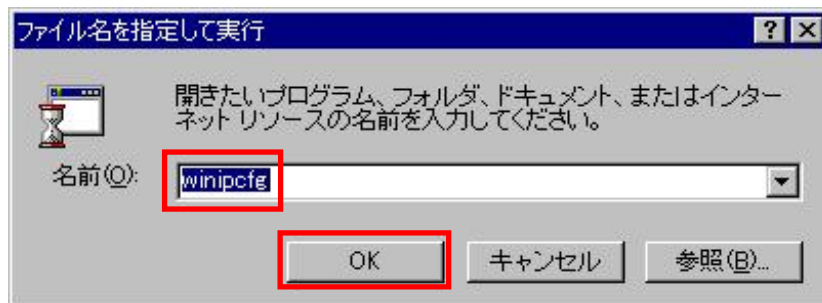


パソコンの IP アドレス

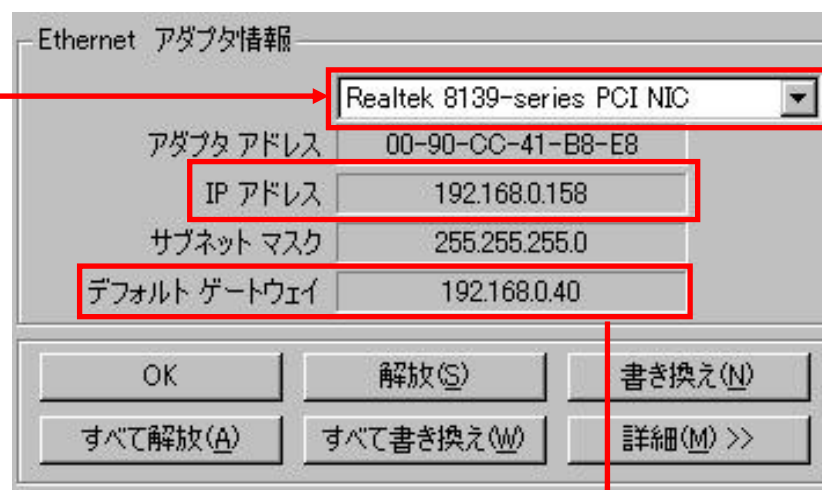
本装置の LAN 側 IP アドレスになります。

**Windows 95/98/Me の場合**

- ① 『スタート』 から 『ファイル名を指定して実行』 を選択します。
- ② 『winipcfg』 と入力し、『OK』 をクリックします。



- ③ ご使用の 『Ethernet アダプタ』 を選択します。
- ④ 『IP アドレス』 が正しく表示されていることをご確認ください。



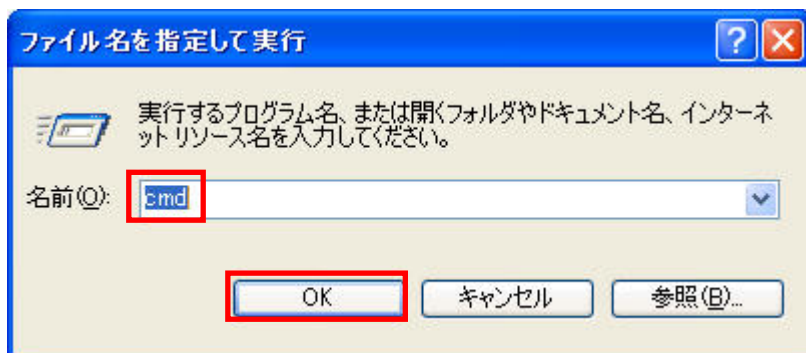
ご使用の 『Ethernet アダプタ』 を選択します。

本装置の LAN 側 IP アドレスになります。

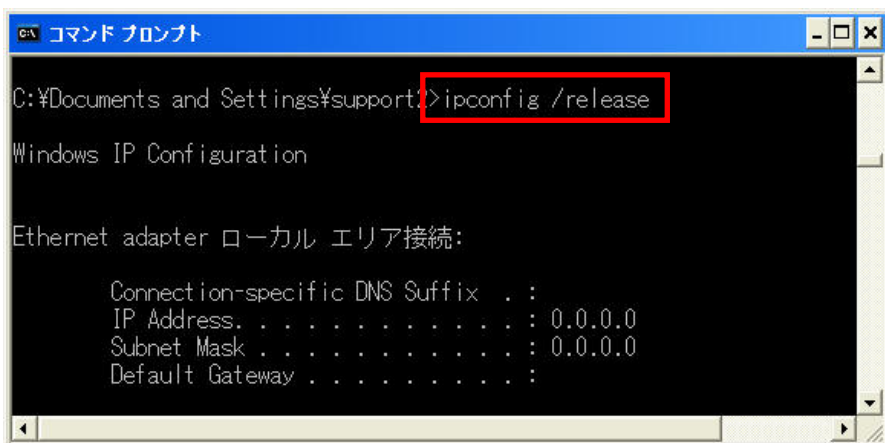
2-4 パソコンの IP アドレスを再取得する

Windows 2000/XP の場合

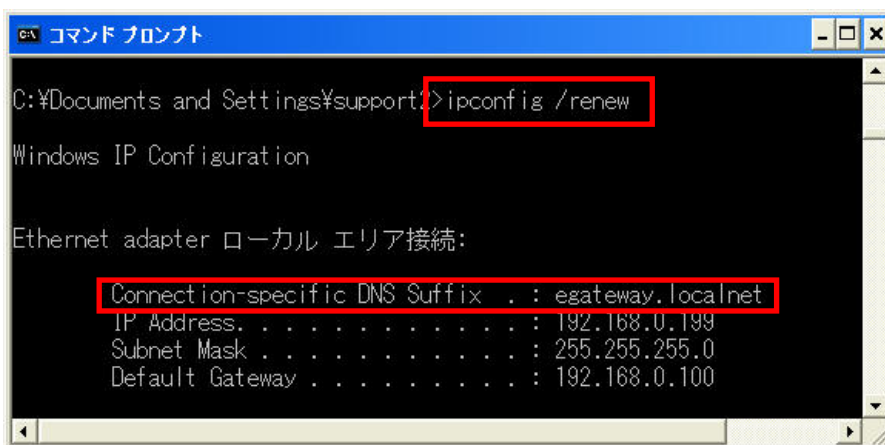
- ① 『スタート』 から 『ファイル名を指定して実行』 を選択します。
- ② 『cmd』 と入力し、 『OK』 をクリックします。



- ③ 『ipconfig /release』 と入力します。  
IP アドレスを開放します。

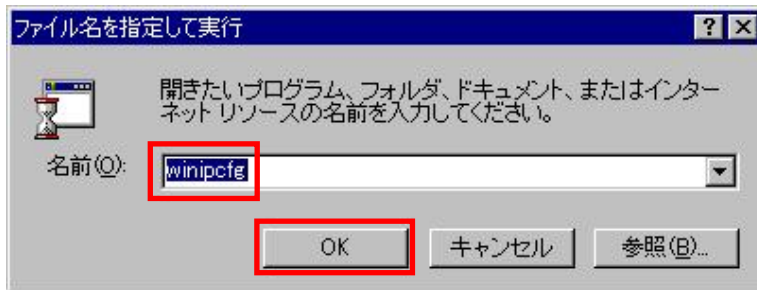


- ④ 『ipconfig /renew』 と入力します。  
IP アドレスを再取得します。  
IP アドレスを取得すると 『Connection-specific DNS Suffix』 に 『egateway.localnet』 が表示されます。

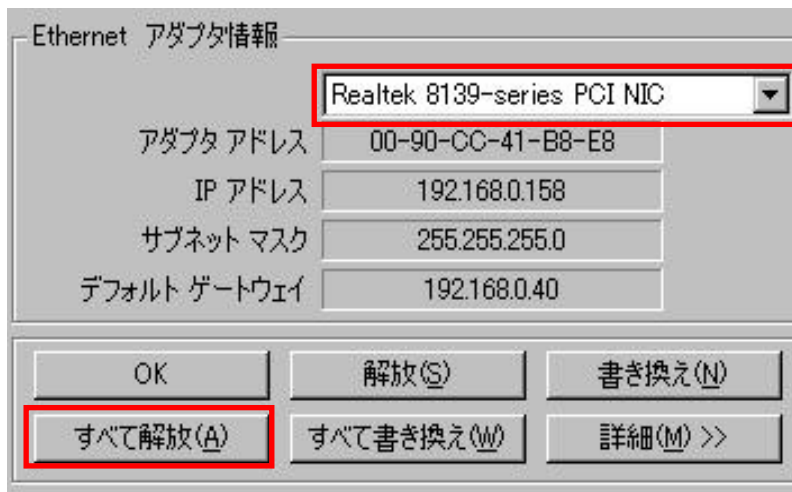


**Windows 95/98/Me の場合**

- ① 『スタート』 から 『ファイル名を指定して実行』 を選択します。
- ② 『winipcfg』 と入力し、 『OK』 をクリックします。



- ③ ご使用の 『Ethernet アダプタ』 を選択します。
- ④ 『すべて開放』 をクリックします。



- ⑤ パソコンを再起動します。

ご使用の 『Ethernet アダプタ』 を選択します。

## 3章 接続と設定例

この章では本製品の接続方法と設定画面を利用した基本的な設定手順について解説します。

### 3-1 接続に関する注意点

1. 同時5通話(5チャンネル)以上のご利用の場合は本製品を複数台設置する必要があります。
2. クロック同期については別途お問合せください。

### 3-2 設定に関する注意点

#### 設置環境の注意点

1. パソコンに固定 IP アドレスを設定している場合、DNS サーバをプロバイダの指定 DNS サーバに設定してください。
2. DHCP サーバを設置している場合、DHCP サーバの割り当てる DNS サーバをプロバイダの指定 DNS サーバに設定してください。
3. メールの受信はできるが送信ができない場合は、ルータのセキュリティレベルを下げてください。
4. 本製品を設置するためにプロバイダを変更された場合、以前のプロバイダのメールが送信できない場合があります。  
以前のプロバイダのメールを送信するための設定は、各プロバイダにお問合せください。



本装置は発熱を排気しています。本装置の左右の通風口から 10cm以上空け、空気のこもらない場所に設置して下さい。

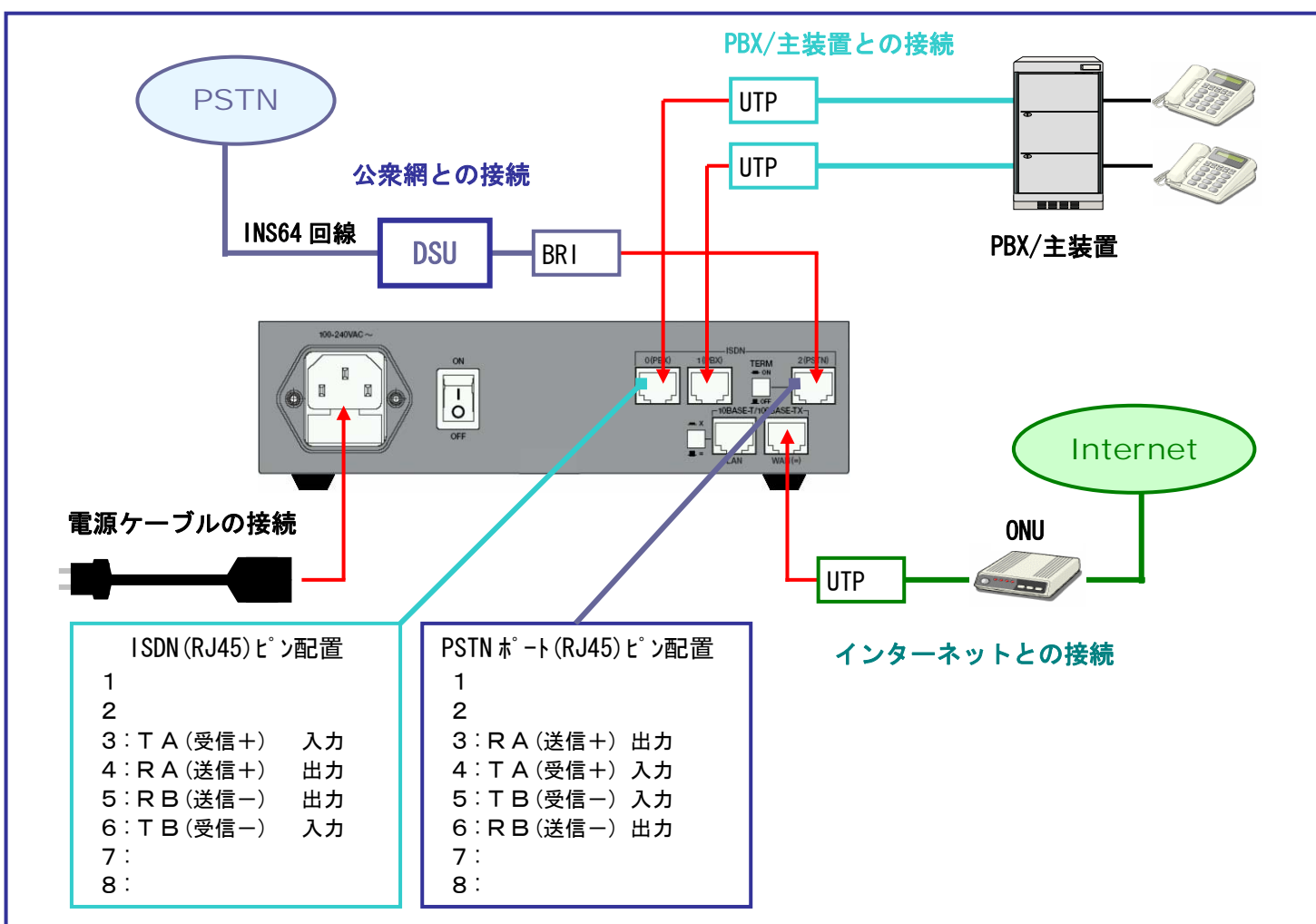


通話中に電源 OFF、回線の抜き差しは行うと誤動作の原因になる場合があります。電源を切る場合は、IP 電話を使用していないことを確認してから行ってください。

3-3 基本接続

- ① 『ADSL モデム』または『ONU』と『WAN ポート』を接続します。  
※接続状態になると、『WAN LED』が点灯します。
- ② 『PBX』と『ISDN ポート』を付属の UTP ケーブルで接続します。  
※接続状態になると、『ISDN0』、『ISDN1 LED』がそれぞれ点灯します。
- ③ 『INS 回線』と『PSTN ポート』を BRI ケーブルで接続します（ストレートの UTP ケーブルで代用可）。  
※接続状態になると、『ISDN2 LED』が点灯します。
- ④ 『設定用パソコン』と『LAN ポート』を接続します。  
※接続状態になると、『LAN LED』が点灯します。

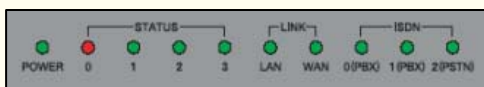
※1. レイヤ1の確立（受信）によってLEDが点灯します。  
 ※2. 本製品は ISDN の網側にあたります。また、PBS 側の DSU は必要ございません。



前面 LED の説明

- WAN ポート接続 : WAN 点灯
- LAN ポート接続 : LAN 点灯
- ISDN0 ポート接続 : ISDN0 点灯
- ISDN1 ポート接続 : ISDN1 点灯
- ISDN2 ポート接続 : ISDN2 点灯

※LAN ポートに何も接続しない場合は『LAN LED』は点灯しません。



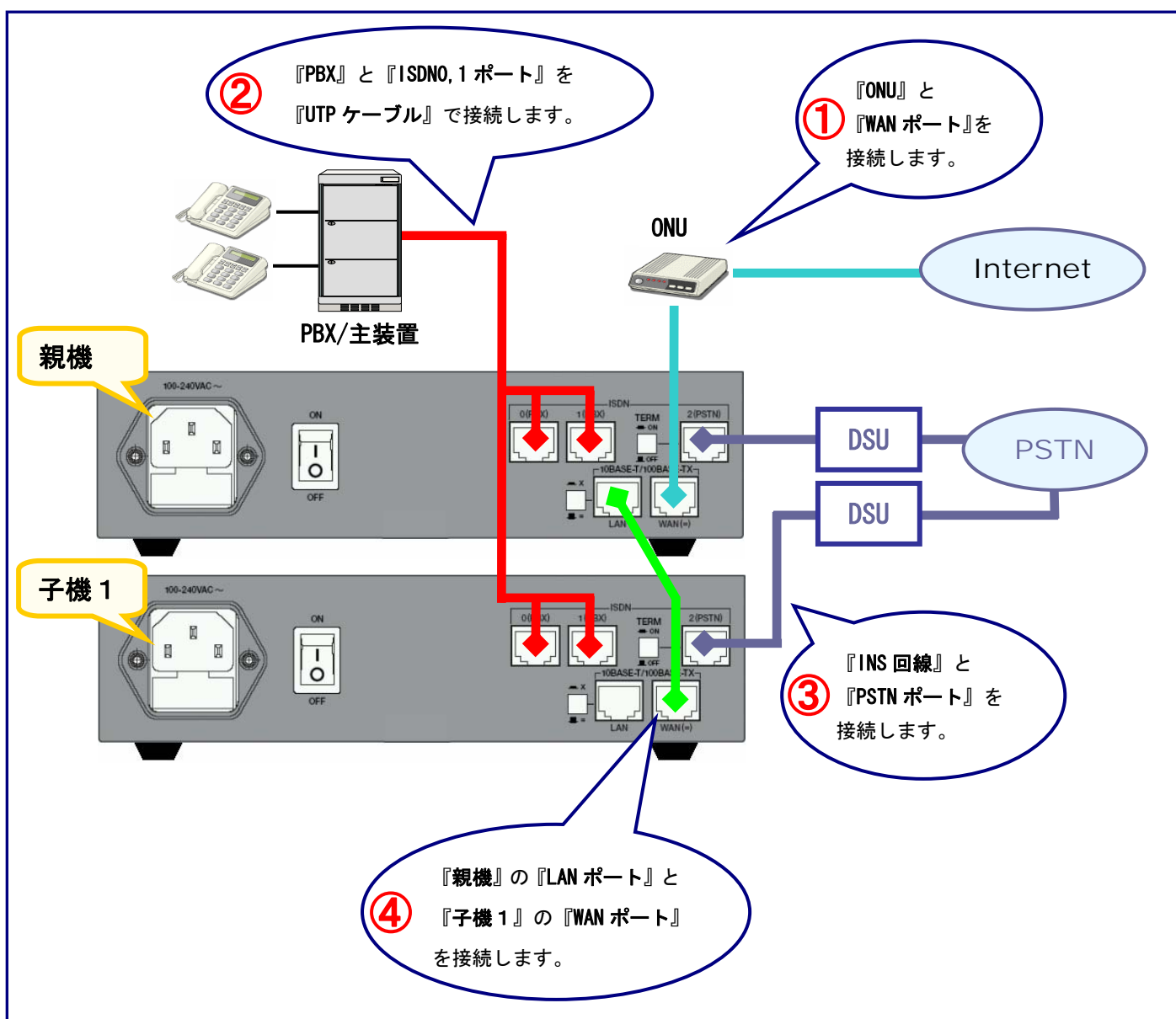


3-4 複数台接続

同時5チャンネル以上のご利用をする場合、複数台の設置を行います。

2台接続する場合

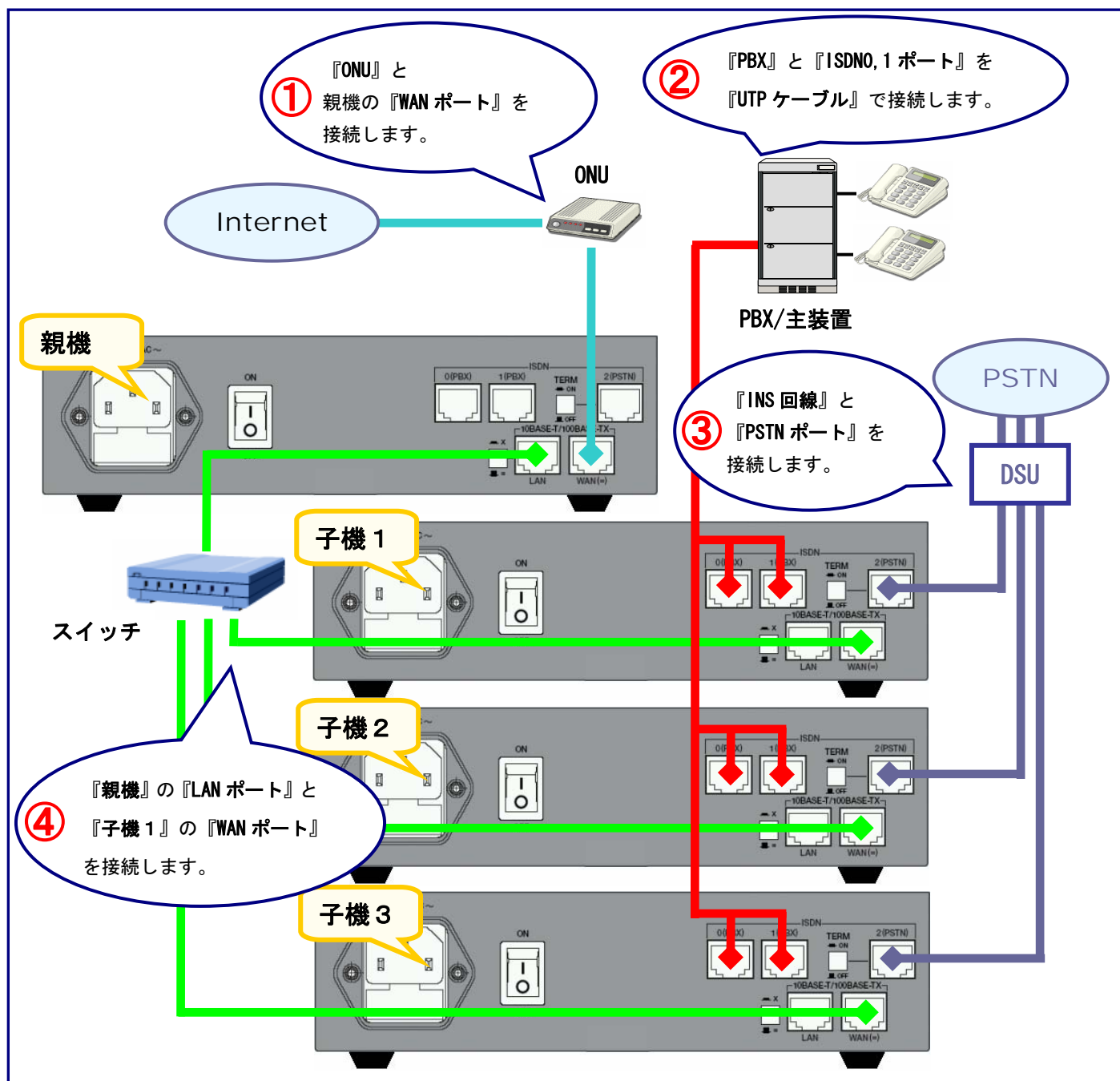
- ① 『ADSL モデム』または『ONU』と親機の『WAN ポート』を接続します。  
※接続状態になると、親機の『WAN LED』が点灯します。
- ② 『PBX』と各機器の『ISDN ポート』を付属の UTP ケーブルで接続します。  
※接続状態になると、『ISDN0 LED』、『ISDN1 LED』がそれぞれ点灯します。
- ③ 『INS 回線』と各機器の『PSTN ポート』を接続します。  
※接続状態になると、『ISDN2 LED』が点灯します。
- ④ 親機の『LAN ポート』と子機 1 の『WAN ポート』を接続します。  
※接続状態になると、親機の『LAN LED』、子機の『WAN LED』が点灯します。




 本装置を重ねて置く場合は熱がこもる場合がありますので重ね置きは2台までとしてください。

### 3台以上接続する場合

- ① 『ONU』と親機の『WANポート』を接続します。  
※接続状態になると、親機の『WAN LED』が点灯します。
- ② 『PBX』と各機器の『ISDNポート』を付属のUTPケーブルで接続します。  
※接続状態になると、『ISDN0 LED』、『ISDN1 LED』がそれぞれ点灯します。
- ③ 『INS回線』と各機器の『PSTNポート』を接続します。  
※接続状態になると、『ISDN2 LED』が点灯します。
- ④ 親機の『LANポート』と子機の『WANポート』を接続します。  
※接続状態になると、親機の『LAN LED』、子機の『WAN LED』が点灯します。

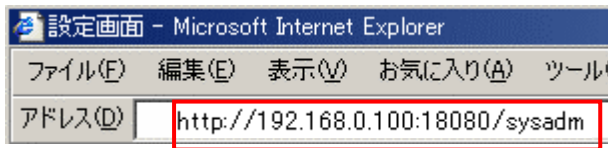


 本装置を重ねて置く場合は熱がこもる場合がありますので重ね置きは2台までとしてください。

3-5 設定画面 (トップページ)

WEB ブラウザから設定画面のトップページにアクセスします。

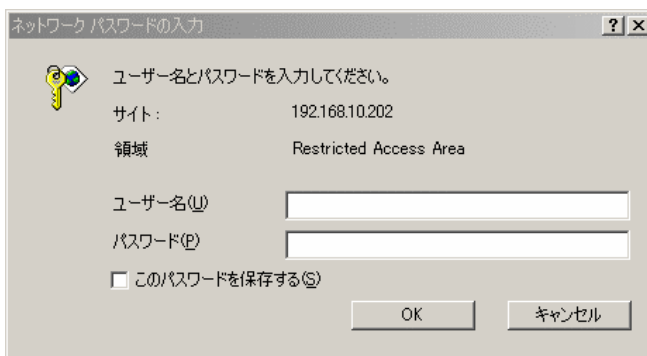
URL は『<http://192.168.0.100:18080/sysadm/>』です。



※WEB ブラウザは Internet Explorer 5.0 以上をご使用ください。

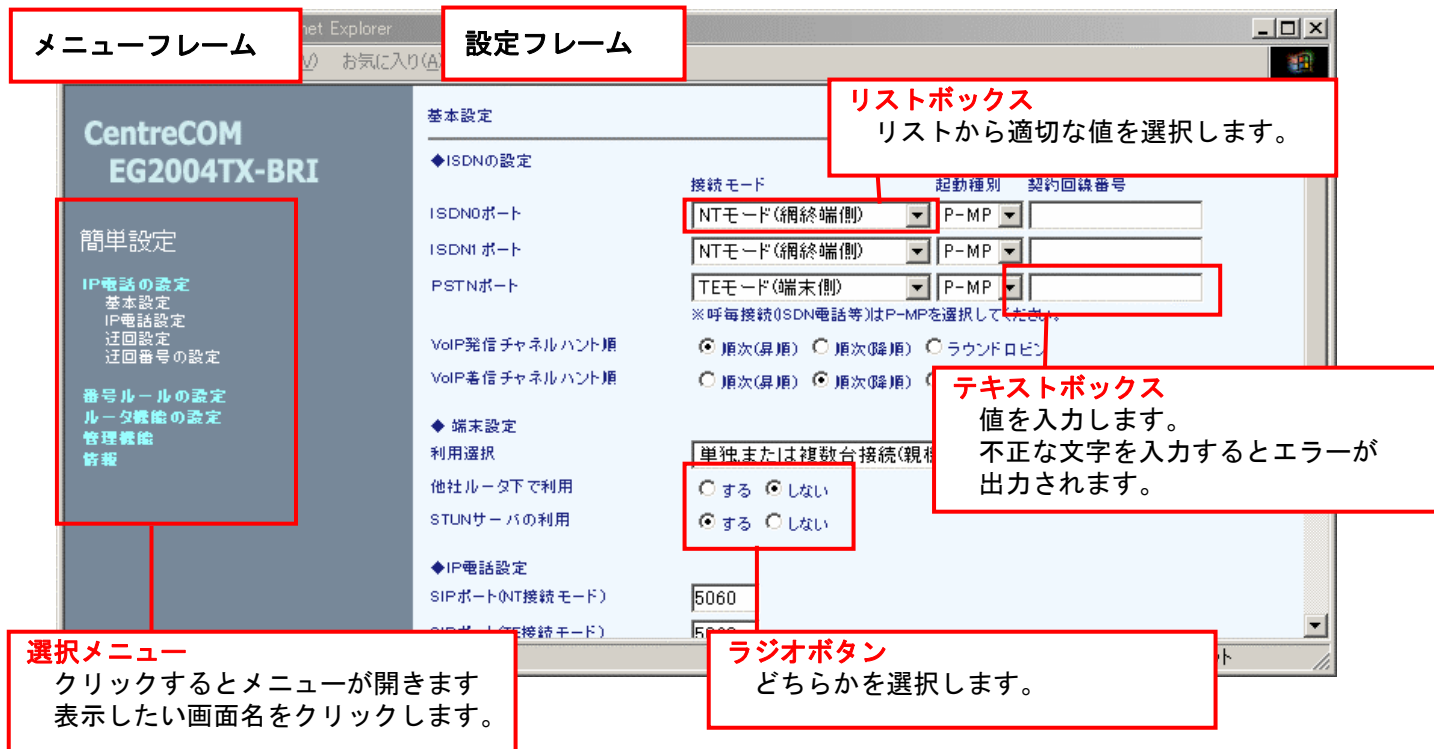
また、Netscape などの Internet Explorer 以外の WEB ブラウザを使用した場合、正常に表示できない場合があります。

認証ウインドウが立ち上がりますので、ユーザ名に『**manager**』、パスワードに『**friend**』を入力し、『OK』ボタンを押します。



ユーザー名 : manager  
パスワード : friend

本製品の設定を行うために設定画面にアクセスします。  
画面左がメニューフレーム、画面右が設定フレームです。

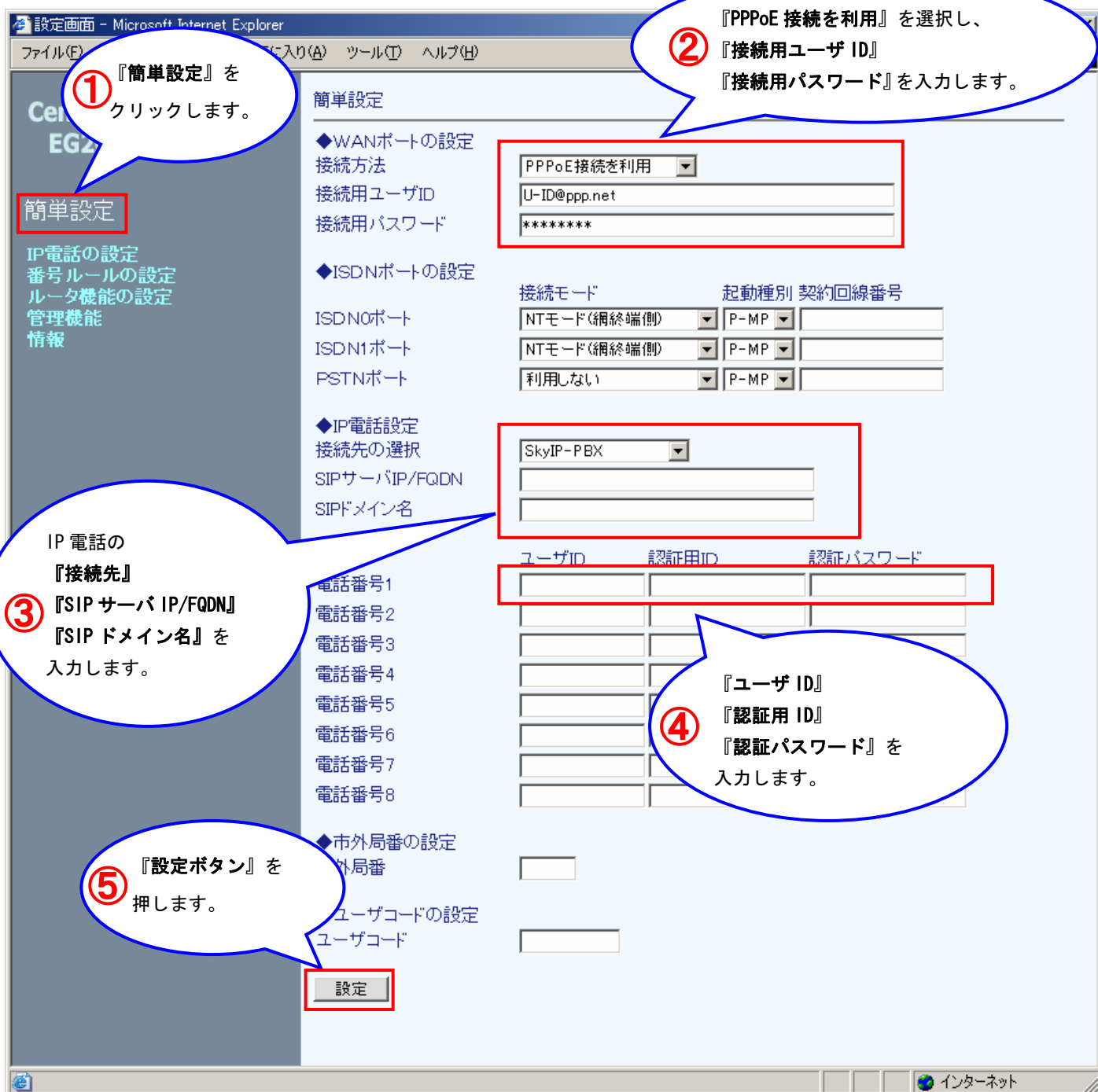


- ※ 1. 画面が表示されない場合はセキュリティソフトのセキュリティレベルを下げるなどを行ってください。
- ※ 2. 設定画面は JavaScript を利用していますのでブラウザの設定で JavaScript が利用できる事をご確認ください。
- ※ 3. WEB ブラウザは Internet Explorer 5.0 以上をご使用ください。  
また、Netscape などの Internet Explorer 以外の WEB ブラウザを使用した場合、正常に表示できない場合がありますのでご注意ください。

3-6 設定例

『簡単設定画面』を利用した設定手順は以下のようになります。(PPPoE 接続の場合)

- ① 設定画面メニューから『簡単設定』をクリックします。
- ② WAN ポートの『接続方法』を『PPPoE 接続を利用』を選択し、『接続用ユーザ ID』『接続用パスワード』を入力します。
- ③ IP 電話サーバの『接続先』(サーバ種別)を選択し、『SIP サーバ IP/FQDN』『SIP ドメイン名』を入力します。
- ④ IP 電話の『ユーザ ID』『認証用 ID』『認証パスワード』を入力します。
- ⑤ 設定ボタンを押します。



## 3-7 簡単設定

簡単設定画面の詳細な利用方法について説明します。

簡単設定

◆WANポートの設定

接続方法

接続用ユーザID

接続用パスワード

◆ISDNポートの設定

	接続モード	起動種別	契約回線番号
ISDN0ポート	<input type="text" value="NTモード(網終端側)"/>	<input type="text" value="P-MP"/>	<input type="text"/>
ISDN1ポート	<input type="text" value="NTモード(網終端側)"/>	<input type="text" value="P-MP"/>	<input type="text"/>
PSTNポート	<input type="text" value="利用しない"/>	<input type="text" value="P-MP"/>	<input type="text"/>

◆IP電話設定

接続先の選択

SIPサーバIP/FQDN

SIPドメイン名

	ユーザID	認証用ID	認証パスワード
電話番号1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
電話番号2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
電話番号3	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
電話番号4	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
電話番号5	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
電話番号6	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
電話番号7	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
電話番号8	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

◆市外局番の設定

市外局番

◆ユーザコードの設定

ユーザコード

## ① WAN ポートの設定

本製品の WAN ポートを設定します。

## ・ PPPoE 接続利用

PPPoE 接続により IP アドレスを取得します。

◆WANポートの設定	
接続方法	PPPoE接続を利用
接続用ユーザID	U-ID@ppp.net
接続用パスワード	*****

No.	項目	説明
1	接続方法*	『PPPoE 接続を利用』を選択します。
2	接続用ユーザ ID*	接続用ユーザ ID を入力します。
3	接続用パスワード*	接続用パスワードを入力します。

## ・ 固定 IP アドレス利用

固定の IP アドレスを設定します。

◆WANポートの設定	
接続方法	固定IPアドレスを利用
IPアドレス	192.168.1.100
サブネットマスク	24 (255.255.255.0)
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1

No.	項目	説明
1	接続方法*	『固定 IP アドレスを利用』を選択します。
2	IP アドレス*	WAN 側 IP アドレスを入力します。
3	サブネットマスク	WAN 側サブネットマスクを選択します。
4	デフォルトゲートウェイ*	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。

## ・ DHCP 利用

DHCP サーバから割り当てられる IP アドレスを使用します。

◆WANポートの設定	
接続方法	DHCPを利用

No.	項目	説明
1	接続方法*	『DHCP を利用』を選択します。

## ② ISDN ポートの設定

本製品の ISDN ポートを設定します。

通常、PBX/主装置に接続するポートを『NT モード』、PSTN 網に接続するポートを『TE モード』に設定し、それ以外は『利用しない』に設定します。

◆ISDNポートの設定			
	接続モード	起動種別	契約回線番号
ISDN0ポート	NTモード(網終端側) ▼	P-MP ▼	
ISDN1ポート	NTモード(網終端側) ▼	P-MP ▼	
PSTNポート	利用しない ▼	P-MP ▼	

No.	項目	説明
1	接続モード	ISDN ポートの利用選択を行います。
	● NT モード (網終端側)	ISDN0, 1 ポートを利用する場合に選択します。
	TE モード (端末側)	PSTN ポートを迂回ポートとして利用する場合に選択します。
	同期モード	PSTN ポートから同期をとる場合に選択します。
	利用しない	ポートを利用しない場合に選択します。
2	起動種別	PBX のレイヤ 1 起動種別を選択します。
	● P-MP	ポイントトゥマルチポイント接続を利用します。 常時・呼毎接続をサポートします。 PBX 側で TEI を動的に割り当てる場合に選択します。
	P-P	ポイントトゥポイント接続を利用します。常時接続をサポートします。 PBX 側で TEI を固定で割り当てる場合に選択します。
3	契約回線番号	PSTN(網側)より <b>着番号が本製品に送信されない場合に、SIP側へ送信する番号</b> を設定します。通常、ISDN契約回線番号を入力します。 ※ISDN 契約回線の着番号は“ダイヤルイン契約有り”で“グローバル着信なし”の場合のみ送付されます。 それ以外での契約の場合、本項目で契約回線番号を <b>市外局番+市内局番+加入者番号</b> 例 (03-1234-5678) のように設定してください。 ※NT モードを選択した場合、設定の必要はありません。



### ③ IP 電話設定

利用する IP 電話サーバ、電話番号の設定を行います。

◆IP電話設定			
接続先の選択	SkyIP-PBX		
SIPサーバIP/FQDN	<input type="text"/>		
SIPドメイン名	<input type="text"/>		
	ユーザID	認証用ID	認証パスワード
電話番号1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
電話番号2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

No.	項目	説明
1	接続先の選択	接続先の SIP サーバ種別を選択します。
2	SIP サーバ IP/FQDN	SIP サーバの IP アドレスまたは FQDN を入力します。
3	SIP ドメイン名	SIP ドメイン名を入力します。
4	電話番号	上記 SIP サーバで利用する IP 電話番号を設定します。
	ユーザ ID	ユーザ ID を入力します。
	認証用 ID	認証用 ID を入力します。
	認証パスワード	認証パスワードを入力します。

### ④ 市外局番の設定

発信する際の市外局番自動付加機能の設定をおこないます。

◆市外局番の設定	
市外局番	<input type="text"/>

No.	項目	説明
1	市外局番	市外局番を入力します。

### ⑤ ユーザコードの設定

ダイヤルする番号を簡素化するためのユーザコード設定を行います。



No.	項目	説明
1	ユーザコード	ユーザコードを入力します。

※ユーザコードとは？

ダイヤルした番号に、設定したコードを自動付加する機能です。

この機能は、各拠点に設定した番号の上位桁が全て共通の場合に利用することができます。

例

拠点 A. 050-1111-2222

拠点 B. 050-1110-2223

上記の場合、ユーザコードに『050-111』を登録すると実際にユーザが意識する番号は下5桁になります。

## 4章 IP電話の設定

この章では本製品のIP電話設定画面の詳細利用方法について解説します。

### 4-1 基本設定

ISDNポート設定、利用ポートなどの基本的な端末設定を行います。  
※画面の値は初期値です。

- ① 設定メニューから、『IP電話の設定』『基本設定』をクリックします。
- ② 各項目の設定を行います。(詳細は下記)
- ③ 『設定』ボタンを押します。

基本設定	
◆ISDNの設定	
	接続モード <sup>*</sup> 起動種別   契約回線番号
ISDN0ポート	NTモード(網終端側)   P-MP <input type="text"/>
ISDN1ポート	NTモード(網終端側)   P-MP <input type="text"/>
PSTNポート	利用しない              P-MP <input type="text"/>
※呼毎接続(ISDN電話等)はP-MPを選択してください。	
VoIP発信チャンネルハント順	<input checked="" type="radio"/> 順次(昇順) <input type="radio"/> 順次(降順) <input type="radio"/> ラウンドロビン
VoIP着信チャンネルハント順	<input type="radio"/> 順次(昇順) <input checked="" type="radio"/> 順次(降順) <input type="radio"/> ラウンドロビン
◆ 端末設定	
利用選択	<input checked="" type="checkbox"/> 単独または複数台接続(親機) <input type="checkbox"/> オートポートマッピング
他社ルータ下で利用	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
STUNサーバの利用	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
◆IP電話設定	
SIPポート(NT接続モード)	<input type="text" value="5060"/>
SIPポート(TE接続モード)	<input type="text" value="5062"/>
RTPポート(NT接続モード)	<input type="text" value="11000"/> ~ <input type="text" value="11199"/>
RTPポート(TE接続モード)	<input type="text" value="12000"/> ~ <input type="text" value="12199"/>
電話優先度(QValue)	<input type="text" value="設定しない"/>
登録消去(UN-REGIST)	<input type="text" value="すべて"/>
QoS Tos設定(SIP)	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効   Ox <input type="text"/> (00 ~ BE: 偶数)
QoS Tos設定(RTP)	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効   Ox <input type="text"/> (00 ~ BE: 偶数)
市外局番	<input type="text"/> ※ <input type="text" value="5"/> 桁以上のダイヤルに対して有効にする
ユーザコード	<input type="text"/> ※ <input type="text" value="4"/> 桁以内のダイヤルに対して有効にする
<input type="button" value="設定"/>	

①

②

③

① ISDN の設定

ISDN ポートとチャネルの設定を行います。

- ① ISDN ポートの『接続モード』を選択します。利用しない場合は『利用しない』を選択します。
- ② 利用ポートの『起動種別』を選択します。
- ③ PSTN ポートを迂回ポートとして利用する場合、『契約回線番号』を入力します。
- ④ 『VoIP 発信／着信チャネルハント順』をそれぞれ選択します。

◆ISDNの設定			
	接続モード	起動種別	契約回線番号
ISDN0ポート	NTモード(網終端側)	P-MP	
ISDN1ポート	NTモード(網終端側)	P-MP	
PSTNポート	利用しない	P-MP	
※呼毎接続(ISDN電話等)はP-MPを選択してください。			
VoIP発信チャネルハント順	<input checked="" type="radio"/> 順次(昇順) <input type="radio"/> 順次(降順) <input type="radio"/> ラウンドロビン		
VoIP着信チャネルハント順	<input type="radio"/> 順次(昇順) <input checked="" type="radio"/> 順次(降順) <input type="radio"/> ラウンドロビン		

No.	項目	説明
1	接続モード	各 ISDN ポートの利用選択を行います。
	● NT モード (網終端側)	ISDN0, 1 ポートを利用する場合に選択します。 ※PBX 側は TE モードに設定してください。
	TE モード (端末側)	PSTN ポートを迂回ポートとして利用する場合に選択します。
	同期モード	PSTN ポートから同期をとる場合に選択します。
	利用しない	ポートを利用しない場合に選択します。
2	起動種別	PBX のレイヤ 1 起動種別を選択します。
	● P-MP	ポイントトゥマルチポイント接続を利用します。 常時・呼毎接続をサポートします。 PBX 側で TEI を動的に割り当てる場合に選択します。
	P-P	ポイントトゥポイント接続を利用します。常時接続をサポートします。 PBX 側で TEI を固定で割り当てる場合に選択します。
3	契約回線番号	PSTN (網側) より <b>着番号が本製品に送信されない場合に、SIP側へ送信する番号</b> を設定します。通常、ISDN契約回線番号を入力します。 ※ISDN 契約回線の着番号は“ダイヤルイン契約有り”で“グローバル着信なし”の場合のみ送られます。それ以外での契約の場合、本項目で契約回線番号を <b>市外局番+市内局番+加入者番号 例 (03-1234-5678)</b> のように設定してください。 ※NT モードを選択した場合は設定の必要はありません。
4	発信チャネル割付	発信時のチャネル利用順を選択します。
	● 順次 (昇順)	常に ISDN0 (B1→B2) → ISDN1 の順に空きチャネルを探していきます。
	順次 (降順)	常に ISDN1 (B2→B1) → ISDN0 の順に空きチャネルを探していきます。
	ラウンドロビン	1 通話ごとに ISDN0 (B1→B2) → ISDN1 とローテーションしていきます。
5	着信チャネル割付	着信時のチャネル利用順を選択します。
	順次 (昇順)	常に ISDN0 (B1→B2) → ISDN1 の順に空きチャネルを探していきます。
	● 順次 (降順)	常に ISDN1 (B2→B1) → ISDN0 の順に空きチャネルを探していきます。
	ラウンドロビン	1 通話ごとに ISDN0 (B1→B2) → ISDN1 とローテーションしていきます。

## ② 端末設定

本製品の利用方法、設置状態などを設定します。

- ① 本製品の利用方法を選択します。(単独設置、複数台接続時の親機/子機など)
- ② SIP, RTP ポートを、『利用選択』の設定に応じて自動的に設定したい場合、『オートポートマッピング』にチェックを入れます。
- ③ 本製品を他社ルータの下に置く場合、『他社ルータ下で利用』に『する』を選択します。
- ④ STUN サーバを利用する場合、『STUN サーバの利用』に『する』を選択します。

◆ 端末設定

利用選択 単独または複数台接続(親機)  オートポートマッピング

他社ルータ下で利用  する  しない

STUNサーバの利用  する  しない

No.	項目	説明
1	利用選択	設定した端末利用に応じて SIP、RTP のポートを変更します。
	● 単独または複数台接続 (親機)	単独または複数台接続の親機として利用する場合に選択します。
	複数台接続 (子機 1~5)	複数台接続の子機として利用する場合に選択します。 SSH (未サポート)、WWW、SIP、RTP ポートが変更されます(※下図参照)
2	他社ルータの下で利用	本製品をルータの下で利用する場合に選択します。
	する	SSH (未サポート)、WWW ポートが変更されます。(※下図参照)
	● しない	ポートを変更しません。
3	STUN サーバの利用	STUN サーバを『利用する』ことにより、 リモートサポートを受ける事ができます。 また、グローバルアドレスを割り振らない場合は『利用する』に設定する事により、NAT 配下のアドレス解決を行います。
	● する	STUN サーバを利用します。
	しない	ローカル環境での利用の場合に選択します。

本製品のポート番号の設定は以下のようになります。

(SIP, RTP ポートは ③IP 電話設定 で別途設定可能です)

本製品が利用するポート番号一覧				
端末番号	SSHポート (未サポート)	WWWポート	通話制御ポート	音声利用ポート
親機・単独	22	18080	5060、5062	11000~11199
他社ルータ下	2221	18080	5060、5062	11000~11199
子機 1	2222 (ルータ下)	18180 (ルータ下)	5070、5072	11200~11399
子機 2	2223 (ルータ下)	18280 (ルータ下)	5080、5082	11400~11599
子機 3	2224 (ルータ下)	18380 (ルータ下)	5090、5092	11600~11799
子機 4	2225 (ルータ下)	18480 (ルータ下)	5100、5102	11800~11999
子機 5	2226 (ルータ下)	18580 (ルータ下)	5110、5112	12000~12199

## ③ IP電話設定

IP電話で使用するポート番号、パケット優先度、市外局番などを設定します。

- ① 『オートポートマッピング』を行わない場合に本製品に設定する『SIP/RTPポート』を入力します。
- ② 端末間の優先度を設定する場合、『電話優先度』を選択します。
- ③ 『登録消去』(UN-Registerの送信)設定を行います。
- ④ SIP, RTPパケットの『QoS Tos設定』を選択、入力します。
- ⑤ 『市外局番』『ユーザコード』と、それぞれの有効桁数を入力します。

◆IP電話設定	
SIPポート(NT接続モード)	5060
SIPポート(TE接続モード)	5062
RTPポート(NT接続モード)	11000 ~ 11199
RTPポート(TE接続モード)	12000 ~ 12199
電話優先度(QValue)	設定しない
登録消去(UN-REGIST)	すべて
QoS Tos設定(SIP)	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 0x [ ] (00 ~ BE: 偶数)
QoS Tos設定(RTP)	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 0x [ ] (00 ~ BE: 偶数)
市外局番	[ ] ※5 桁以上のダイヤルに対して有効にする
ユーザコード	[ ] ※4 桁以内のダイヤルに対して有効にする

No.	項目	説明
1	SIPポート (NTモード)	網終端側のSIPポートを設定します。
2	SIPポート (TEモード)	端末側のSIPポートを設定します。
3	RTPポート (NTモード)	網終端側のRTPポート範囲を設定します。
4	RTPポート (TEモード)	端末側のRTPポート範囲を設定します。
5	電話優先度 (Q Value)	複数の端末に同一番号を登録した場合の、着信の端末間の優先度を選択します。
6	登録消去 (UN-REGIST)	UN-Register (SIPサーバの登録削除)送信を設定します。
7	QoS Tos設定 (SIP)	SIPのパケットのTosフラグ設定を行います。
	<input checked="" type="radio"/> 無効	SIPのパケットにTosフラグを設定しません。
	<input type="radio"/> 有効	スループット・遅延・信頼性のレベルを設定します。 設定値は16進数で0x00~0xBEまでの偶数のみ入力できます。
8	QoS Tos設定 (RTP)	RTPのパケットにTosフラグを設定します。
	<input checked="" type="radio"/> 無効	RTPのパケットにTosフラグを設定しません。
	<input type="radio"/> 有効	スループット・遅延・信頼性のレベルを設定します。 設定値は16進数で0x00~0xBEまでの偶数のみ入力できます。
9	市外局番	『有効桁数』以上のダイヤルに対し、入力した『市外局番』を付加して発信します。
10	ユーザコード	『有効桁数』以内のダイヤルに対し、入力した『ユーザコード』を付加して発信します。

4-2 IP電話設定

IP電話を使用する場合に設定します。

- ① 設定メニューから、『IP電話の設定』『IP電話設定』をクリックします。
- ② 『接続先の選択』で、接続するIP電話サーバを選択します。
- ③ サーバのIPアドレスとSIPドメイン名を入力します。
- ④ 必要に応じて『設定番号』を入力します。
- ⑤ 『VoIP発番通知』を選択します。
- ⑥ 『ISDN送話/受話音量』を選択します。
- ⑦ 『設定』ボタンを押します。

IP電話設定

接続モードの選択

表示モード  詳細設定

◆サーバ設定

接続先の選択

SIPサーバIP/FQDN

SIPドメイン名

設定番号

◆番号ルール設定

VoIP発番通知

◆音声設定

ISDN送信音量(SIP⇒ISDN)  dB  dB

ISDN受信音量(ISDN⇒SIP)  dB  dB

『詳細設定』にチェックを入れると、より詳細な設定を行うことができます。  
各項目の説明は下記をご覧ください。

IP電話設定	
接続モードの選択 <input type="text" value="NTモード動作設定"/>	①
表示モード <input checked="" type="checkbox"/> 詳細設定	
◆サーバ設定 接続先の選択 <input type="text" value="SkyIP-PBX"/> SIPサーバIP/FQDN <input type="text"/> SIPドメイン名 <input type="text"/>	②
◆SIPプロトコル設定 100REL <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 iSub <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 セッションタイム <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効 UPDATE <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 DATE <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 Session Expire <input type="text" value="180"/> 秒 Refresher初期値 <input type="text" value="設定しない"/> 未指定時のRefresher初期値 <input type="text" value="UAS"/> 100Trying受信後のタイムアウト <input type="text" value="5"/> 秒 INVITEタイムアウト <input type="text" value="5"/> 秒 BYE/CANCELタイムアウト <input type="text" value="32"/> 秒 Register 間隔 <input type="text" value="3600"/> 秒	③
◆ISDN-SIP対応コード 呼出し中(ALERT) <input type="text" value="180 Ringing"/> 話中切断(#17、#34) <input type="text" value="486 Busy Here"/> エラー切断(その他理由) <input type="text" value="406 Not Acceptable"/>	④
◆機能設定 接続モード <input type="text" value="SIP Proxy接続(WAN側)"/> 設定番号 <input type="text"/>	⑤
◆番号ルール設定 VoIP発番通知 <input type="text" value="設定番号送信"/>	⑥
◆音声設定 音声パケット化周期 <input type="text" value="20"/> ミリ秒 ISDN送信音量(SIP⇒ISDN) <input type="text" value="0"/> dB <input type="text" value="0"/> dB ISDN受信音量(ISDN⇒SIP) <input type="text" value="0"/> dB <input type="text" value="0"/> dB ジッタバッファ最小値 <input type="text" value="80"/> ms <input type="text" value="80"/> ms ジッタバッファ最大値 <input type="text" value="120"/> ms <input type="text" value="120"/> ms	⑦
<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="修正"/> <input type="button" value="番号設定"/> <input type="button" value="初期化"/> <input type="button" value="状態"/>	



### ① 設定モード選択

サーバの接続モード、画面の表示モードの選択を行います。

接続モードの選択	NTモード動作設定 ▼
表示モード	<input checked="" type="checkbox"/> 詳細設定

No.	項目	説明
1	接続モードの選択	設定する接続モードの設定を行います。
	● NTモード動作設定	NTモード接続するサーバを設定します。
	TEモード動作設定	利用しません。
2	表示モード	詳細設定画面を表示する場合にチェックを入れます。

### ② サーバ設定

サーバの設定を行います。

- ① 接続先のサーバを選択します。
- ② SIPサーバIP/FQDN、SIPドメイン名を入力します。

◆サーバ設定	
接続先の選択	SkyIP-PBX ▼
SIPサーバIP/FQDN	<input type="text"/>
SIPドメイン名	<input type="text"/>

No.	項目	説明
1	接続先の選択	SIPサーバの種類を選択します。 ※発信は設定した順に順次スライドして行います。
	● SkyIP-PBX	SkyIP-PBXへ接続します。
	FUSION IP-Phone	FUSION IP-Phoneへ接続します。
	EG2004TX-BRI	EG2004TX-BRI同士の間で接続を行います。
	EG2004TX-BRI (BACKUP)	上記のEG2004TX-BRI間接続サーバが無応答の場合に、動作するEG2004TX-BRIを設定します。 ※通常動作するEG2004TX-BRIの設定の後に続けて入力します。
2	SIPサーバIP/FQDN	上記で選択したSIPサーバのIP/FQDN、またはEG2004TX-BRIの端末IPアドレスを入力します。
3	SIPドメイン名	SIPドメイン名を入力します。 ※EG2004TX-BRI間接続の場合、共通のドメイン名を入力します。

### ③ SIP プロトコル設定

SIP プロトコルのタイマなどの設定を行います。

- ① 送出する SIP プロトコルにおける『100REL』『iSub』『セッションタイマ』『UPDATE』『DATE』の有効/無効をそれぞれ設定します。
- ② 『Session Expire』を入力します。
- ③ 『Refresher 初期値』を選択します。
- ④ 『100Trying 受信後』『INVITE』『BYE/CANCEL』それぞれのタイムアウト値を入力します。
- ⑤ 『Register 間隔』を入力します。

◆SIPプロトコル設定	
100REL	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
iSub	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
セッションタイマ	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
UPDATE	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
DATE	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
Session Expire	<input type="text" value="180"/> 秒
Refresher初期値	<input type="text" value="設定しない"/>
未指定時のRefresher初期値	<input type="text" value="UAS"/>
100Trying受信後のタイムアウト	<input type="text" value="5"/> 秒
INVITEタイムアウト	<input type="text" value="5"/> 秒
BYE/CANCELタイムアウト	<input type="text" value="32"/> 秒
Register 間隔	<input type="text" value="3600"/> 秒

No.	項目	説明
1	100REL	送出する SIP プロトコルにおける 100REL の設定を行います。
	<input type="checkbox"/> 有効	100REL を有効にします。
	<input checked="" type="checkbox"/> 無効	100REL を無効にします。
2	iSub	送出する SIP プロトコルにおける iSub の設定を行います。
	<input type="checkbox"/> 有効	iSub を有効にします。
	<input checked="" type="checkbox"/> 無効	iSub を無効にします。
3	セッションタイム	送出する SIP プロトコルにおけるセッションタイムの設定を行います。
	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	セッションタイムを有効にします。
	<input type="checkbox"/> 無効	セッションタイムを無効にします。
4	UPDATE	送出する SIP プロトコルにおける UPDATE の設定を行います。
	<input type="checkbox"/> 有効	UPDATE を有効にします。
	<input checked="" type="checkbox"/> 無効	UPDATE を無効にします。
5	DATE	送出する SIP プロトコルにおける DATE の設定を行います。
	<input type="checkbox"/> 有効	DATE を有効にします。
	<input checked="" type="checkbox"/> 無効	DATE を無効にします。
6	Session Expires	セッションタイムの Expire 値を設定します。
7	Refresher 初期値	セッションタイム利用時の Refresher 初期設定値を設定します。
	<input type="checkbox"/> UAC	UAC を設定します。
	<input type="checkbox"/> UAS	UAS を設定します。
	<input checked="" type="checkbox"/> 設定しない	初期値を設定しません。
8	Refresher 初期値	セッションタイム利用時の Refresher 初期設定値を設定します。
	<input type="checkbox"/> UAC	UAC を設定します。
	<input checked="" type="checkbox"/> UAS	UAS を設定します。
	<input type="checkbox"/> 設定しない	初期値を設定しません。
9	100Trying タイムアウト	100Trying 受信後 18X 待ちのタイムアウト値を設定します。
10	INVITE タイムアウト	INVITE 送出後の 100Trying 待ちのタイムアウト値を設定します。
11	BYE/CANCEL タイムアウト	BYE および CANCEL 送出後のタイムアウト値を設定します。
10	Register 間隔	REGISTER の送出間隔を設定します。 ※Expires 値は 2 倍して送出

#### ④ ISDN-SIP 対応コード

PBX/主装置の状態に応じて送信する SIP コードを設定します。

- ① 『呼び出し中』に対応するコードを選択します。
- ② 『話中切断』に対応するコードを選択します。
- ③ 『エラー切断』に対応するコードを選択します。

◆ISDN-SIP対応コード	
呼び出し中(ALERT)	180 Ringing
話中切断(#17、#34)	486 Busy Here
エラー切断(その他理由)	406 Not Acceptable

No.	項目	説明
1	呼び出し中	ALERT 時に返送する SIP コードを選択します。
	● 180	コード 180 Ringing を返送します。
	183	コード 183 Session Progress を返送します。
2	話中切断	話中の場合に返送する SIP コードを選択します。
	408	コード 408 Request Timeout を返送します。
	480	コード 480 Temporarily Unavailable を返送します。
	● 486	コード 486 Busy Here を返送します。
	488	コード 488 Not Acceptable Here を返送します。
	600	コード 600 Busy Everywhere を返送します。
	603	コード 603 Decline を返送します。
3	エラー切断	エラーが発生した場合に返送する SIP コードを選択します。
	● 406	コード 406 Not Acceptable を返送します。
	408	コード 408 Request Timeout を返送します。
	480	コード 480 Temporarily Unavailable を返送します。
	486	コード 486 Busy Here を返送します。
	488	コード 488 Not Acceptable Here を返送します。
603	コード 603 Decline を返送します。	

## ⑤ 機能設定

サーバの接続モード、番号の設定を行います。

- ① サーバの『接続モード』を選択します。
- ② 『設定番号』を入力します。

◆機能設定	
接続モード	SIP Proxy接続(WAN側)
設定番号	<input type="text"/>

No.	項目	説明
1	接続モード	プロキシサーバに接続するか（SERVER 接続）、端末間で直接接続（PtoP 接続）するかを設定します。 ※設定を変更すると動作が変わる恐れがありますので通常は変更しないでください。
	● SIP Proxy 接続 (WAN 側)	WAN 側の Proxy サーバ接続モードに設定します。
	SIP Proxy 接続 (LAN 側)	LAN 側の Proxy サーバ接続モードに設定します。
	P-to-P 接続 (WAN 側)	WAN 側の P-to-P 接続モードに設定します。
	P-to-P 接続 (LAN 側)	LAN 側の P-to-P 接続モードに設定します。
2	設定番号	サーバに登録する番号を設定します。 ※SkyIP-PBX のみ、この項目で設定が行えます。 その他のサーバの場合は、画面下部の『番号設定』ボタンから番号設定画面へ移動し、登録してください。

## ⑥ 番号ルール設定

番号ルールの設定を行います。

- ① 『VoIP 発信通知』を設定します。

◆番号ルール設定 VoIP発信通知	設定番号送信
----------------------	--------

No.	項目	説明
1	VoIP 発信通知	VoIP 発信時の発信番号通知の設定を行います。
	● 設定番号送信	設定した番号を送信します。 <b>※ITSPに接続する場合は必ずこれを選択してください。</b>
	発信番号透過	ISDN 発信番号を送信します。
	発サブアドレス透過	ISDN 発サブアドレスを送信します。

## ⑦ 音声設定

音声に関する設定を行います。

- ① 『音声パケット化周期』を選択します。  
② 各ポートの『ISDN 送信/受信音量』『ジッタバッファ最大/最小値』を選択します。

◆音声設定		
音声パケット化周期	20	ミリ秒
	ISDN0ポート	ISDN1ポート
ISDN送信音量(SIP⇒ISDN)	0 dB	0 dB
ISDN受信音量(ISDN⇒SIP)	0 dB	0 dB
ジッタバッファ最小値	80 ms	80 ms
ジッタバッファ最大値	120 ms	120 ms

No.	項目	説明
1	音声パケット化周期	音声パケット化する周期を選択します。 10, 20, 40msec から選択します。(20msec 推奨)
2	ISDN 送信音量	SIP から ISDN へ送信する時の音量を選択します。 -32 ~ +14 の幅で設定します。
	ISDN 受信音量	ISDN から SIP へ送信する時の音量を選択します。 -32 ~ +14 の幅で設定します。
3	ジッタバッファ最小値	ジッタバッファの最小値を選択します。 実際のデータにもよりますが最小値を増やすと遅延が多くなり、減らすと音切れが多くなります。 20 ~ 150 の幅で設定します。(初期値 : 80ms)
	ジッタバッファ最大値	ジッタバッファの最大値を選択します。 20 ~ 150 の幅で設定します。(初期値 : 120ms)

## 4-3 電話番号設定

SIP サーバに登録する電話番号を設定します。

- ① 設定メニューから、『IP電話の設定』『IP電話設定』をクリックします。
- ② 画面下部の『番号設定』ボタンをクリックします。
- ③ 各項目の設定を行います(詳細は下記)
- ④ 番号追加の時は『追加』を、修正の場合は『修正』ボタンをクリックします。

**IP電話番号の設定**

---

接続先 SkyIP-PBX  
 SIPサーバIP/FQDN 192.168.100.100  
 SIPドメイン名 192.168.100.100

---

**◆番号情報の設定**

IP電話番号  ①  
 ユーザID   
 パスワード

---

**◆番号ルールの設定**

ISDN着番号  ②  
 ISDN着サブアドレス   
 ISDN発信番号   
 ISDN発信サブアドレス   
 VoIP発信番号   
 VoIP発信条件   
 VoIP発信数制限   
 VoIP着信数制限   
 発信制限数のグループ化  する  しない  
 利用ポート指定   
 利用チャンネル  ISDN2-B1  ISDN2-B2  
 番号のレジスター  する  しない  
 VoIP発信  許可する  特定のルール以外許可しない

### ① 番号情報の設定

IP 電話番号の情報を設定します。

- ① 『IP 電話番号』を入力します。
- ② 認証用の『ユーザ ID』『パスワード』を入力します。

◆番号情報の設定	
IP電話番号	<input type="text" value="0123456"/>
ユーザID	<input type="text" value="0123456"/>
パスワード	<input type="password" value="*****"/>

No.	項目	説明
1	IP 電話番号	IP 電話番号を入力します。
2	ユーザ ID	認証用のユーザ ID を入力します。
3	パスワード	認証用のパスワードを入力します。



## ② 番号ルールの設定

発信、着信時の番号変換ルールや、利用ポート、チャネルの指定などを行います。

- ① ISDN 着/発の『番号』『サブアドレス』送信ルールを設定します。
- ② VoIP の『発信番号』通知/非通知設定、『発信条件』を選択します。
- ③ 『VoIP 発信数/着信数制限』、『発着制限数のグループ化』を選択します。
- ④ 『利用ポート』『利用チャネル』を選択します。
- ⑤ 『番号のレジスター』のルールを選択します。
- ⑥ 『VoIP 発信』のルールを選択します。

◆番号ルールの設定	
ISDN着番号	送信しない
ISDN着サブアドレス	送信しない
ISDN発番号	送信しない
ISDN発サブアドレス	送信しない
VoIP発信番号	通知
VoIP発信条件	指定なし/番号ルール依存
VoIP発信数制限	制限なし
VoIP着信数制限	制限なし
発着制限数のグループ化	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
利用ポート指定	指定しない
利用チャネル	<input checked="" type="checkbox"/> ISDN2-B1 <input checked="" type="checkbox"/> ISDN2-B2
番号のレジスター	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
VoIP発信	<input checked="" type="radio"/> 許可する <input type="radio"/> 特定のルール以外許可しない

No.	項目	説明
1	ISDN 着番号	着信時に、ISDN 着番号として送る番号を設定します。
	<input checked="" type="radio"/> 送信しない	送信しません。
	<input type="radio"/> 番号ルール依存	番号ルールの設定に依存します。
	<input type="radio"/> 透過	着番号を ISDN 着番号として送信します。
	<input type="radio"/> 着信サブアドレス送信	着信サブアドレスを ISDN 着番号として送信します。
	<input type="radio"/> 固定値送信	設定した値を送信します。右側の入力欄に、送信する値を設定します。
2	ISDN 着サブアドレス	着信時に、ISDN 着サブアドレスとして送る番号を設定します。
	<input checked="" type="radio"/> 送信しない	送信しません。
	<input type="radio"/> 番号ルール依存	番号ルールの設定に依存します。
	<input type="radio"/> 透過	着サブアドレスを ISDN 着サブアドレスとして送信します。
	<input type="radio"/> 着信番号送信	着信番号を ISDN 着サブアドレスとして送信します。
	<input type="radio"/> 固定値送信	設定した値を送信します。右側の入力欄に、送信する値を設定します。
3	ISDN 発番号	発信時、発番として送信する番号を設定します。
	<input checked="" type="radio"/> 送信しない	送信しません。
	<input type="radio"/> 番号ルール依存	番号ルールの設定に依存します。
	<input type="radio"/> 透過	ISDN 発番号を送信します。
	<input type="radio"/> 発信サブアドレス送信	ISDN 発サブアドレスを発番として送信します。
	<input type="radio"/> 固定値送信	設定した値を送信します。右側の入力欄に、送信する値を設定します。

#### 4章 IP電話の設定

4	ISDN 発サブアドレス		発信時、発サブアドレスとして送信する番号を設定します。
	●	送信しない	送信しません。
		番号ルール依存	番号ルールの設定に依存します。
		透過	ISDN 発サブアドレスを送信します。
		発信番号送信	ISDN 発番号を発サブアドレスとして送信します。
		固定値送信	設定した値を送信します。右側の入力欄に、送信する値を設定します。
5	VoIP 発番号		発信する際、相手側に発番号を通知するかを設定します。
	●	通知	発番を通知します。
		非通知	非通知で発信します。
6	VoIP 発信条件		発信する際のルールを選択します。
	●	指定なし/番号ルール依存	発信ルールを指定しないか、または『ダイヤルアウト(発番選択)設定』で登録したルールに従います。
		ISDN 送信値と同値受信時	ISDN 着番号で登録した固定値(番号、サブアドレス)と同じ値を ISDN 側から受け取った場合のみ発信します。
7	VoIP 発信数制限		同時発信数の上限を設定します。
8	VoIP 着信数制限		同時着信数の上限を設定します。
9	発着制限数のグループ化		発着制限数を同時に設定するかを選択します。
		する	発着信双方の最大通話数を一括で制限します。 ※発信制限：2、着信制限：3でグループ化を行った場合、最大3通話が可能です。
	●	しない	発信数と着信数で別々に制限をかけます。
10	利用ポート指定		この電話番号を利用できるポートを指定します。
11	利用チャネル		この電話番号を利用できるチャネルを選択します。
12	番号のレジスター		この番号のサーバへのレジスターを行うか選択します。
	●	する	番号をサーバにレジスターします。
		しない	番号のレジスターを行いません。
13	VoIP 発信		VoIP 発信許可のルールを選択します。
	●	許可する	全ての番号で発信が可能です。
		特定のルール以外許可しない	番号ルールに設定されている番号のみ、発信が可能となります。

## 4-4 迂回設定

PSTN ポートに INS 網を接続している場合に、PBX/主装置から PSTN 網への迂回発信(一般電話の発信)の設定を行います。

- ① 設定メニューから、『IP電話の設定』『迂回設定』をクリックします。
- ② 迂回時に番号先頭につける『プレフィックス番号』を設定します。
- ③ 『プレフィックス付発信』を行う回線と『エラー時迂回』の設定を選択します。
- ④ PSTN 着信時の『ISDN 送信番号』『ISDN 送信サブアドレス』の設定を選択、入力します。
- ⑤ 『設定』ボタンを押します。

迂回設定

プレフィックス番号

プレフィックス付発信  加入電話  VoIP

エラー時の迂回  しない  する

◆PSTN着信時設定

ISDN送信番号

変換着番号

ISDN送信サブアドレス

変換着サブアドレス

No.	項目	説明
1	プレフィックス番号	迂回機能を利用して発信する場合のプレフィックス番号を入力します。
2	プレフィックス付発信	プレフィックス番号をダイヤルした場合に発信する回線を選択します。
	● 加入電話	プレフィックス番号をダイヤルした場合、加入電話発信を行います。
	VoIP	プレフィックス番号をダイヤルした場合、VoIP 発信を行います。
3	エラー時の迂回	VoIP 発信でエラーが返却された場合、加入電話の迂回利用を選択します。
	● しない	エラー時の迂回を行いません。
	する	エラー時の迂回を行います。
4	ISDN 送信番号	PSTN 網からの着信時、PBX へ送信する着番号を選択します。
	● 送信しない	送信しません。
	透過	着番号を送信します。
	着信サブアドレス送信	着サブアドレスを着番号として送信します。
	固定値送信	設定した値を送信します。
5	変換着番号	「固定値送信」の場合に送信する値を入力します。
6	ISDN 送信着サブアドレス	PSTN 網からの着信時、PBX へ送信する着サブアドレスを選択します。
	● 送信しない	送信しません。
	透過	着サブアドレスを送信します。
	着信番号送信	着番号を着サブアドレスとして送信します。
	固定値送信	設定した値を送信します。
7	変換着サブアドレス	「固定値送信」の場合に送信する値を入力します。

## 4-5 迂回番号の設定

PSTNポートを利用している場合に、意識せずに自動的に迂回（PSTN網）発信する番号を設定します。  
 ※IP電話では発信できない番号の登録を主に行います。

- ① 設定メニューから、『IP電話の設定』『迂回番号の設定』をクリックします。
- ② 『区分』を選択し、『番号』『コメント』を入力します。
- ③ 『迂回先』を選択します。
- ④ エントリを追加する場合は『追加』ボタンを、修正の場合は『修正』ボタンを押します。

迂回番号の設定

区分  迂回番号  迂回プレフィックス

番号

コメント

迂回先  PBXへ迂回  PSTNへ迂回

迂回番号	コメント	迂回先	コマンド
100	DSA	PSTN	[編集] [削除]
102	臨時受付	PSTN	[編集] [削除]
104	番号案内	PSTN	[編集] [削除]
106	コレクトコール(オペレータ)	PSTN	[編集] [削除]
107	列車受付公衆	PSTN	[編集] [削除]
108	自動コレクトコール	PSTN	[編集] [削除]

No.	項目	説明
1	区分	迂回発信の条件を選択します。
	<input checked="" type="radio"/> 迂回番号	迂回する番号を設定します。(ダイヤルした番号=迂回番号の場合に動作)
	<input type="radio"/> 迂回プレフィックス	迂回する先頭プレフィックスを設定します。 (ダイヤルした番号の先頭=迂回プレフィックスの場合に動作)
2	番号	登録する番号を設定します。
3	コメント	登録した番号のメモを記載します。
4	迂回先	迂回先を選択します。
	<input checked="" type="radio"/> PBXへ迂回	利用しません。
	<input type="radio"/> PSTNへ迂回	PSTN網へ迂回する場合に選択します。

## 4-6 ダイアルアウトの設定

PBX/主装置からの発信番号、サブアドレスに対して固定の IP 電話番号を割付、発信番号を選択する場合設定を行います。



IP電話の設定で『VoIP発信条件』を『指定なし、番号ルール依存』に選択した場合のみ『ダイアルアウトの設定』は有効になります。

- ①設定メニューの『番号ルール』『ダイアルアウト(発信選択)設定』をクリックします。
  - ②ISDN 側からの『発信番号』、『サブアドレス』を入力します
  - ③関連付けを行う VoIP 側の『発信番号』を選択します。
  - ④追加ボタンを押します。
  - ⑤修正する場合は一覧の『編集』をクリックしデータを表示、修正したのち『修正』ボタンを押します
- ※設定の詳細は次ページをご参照ください。

ダイアルアウト(発信選択)設定

---

分類 ITSP 番号 ▼

ISDN側発信番号

ISDN側発信サブアドレス

VoIP側発信番号 012345678 ▼

No.	項目	説明
1	分類	ダイアルアウトを行うサーバを選択します。
	拠点間番号	EG2004TX-BRI 間の通話でダイアルアウトを行う場合に選択します。
	● ITSP 番号	ITSP の番号でダイアルアウトを行う場合に選択します。
2	ISDN 側発信元番号	PBX から送信される ISDN 発信番号を入力します。
3	ISDN 側発信元サブアドレス	PBX から送信される ISDN 発信サブアドレスを入力します。
4	VoIP 側発信番号	発信で使用する番号を選択します。 ※分類で選択したサーバに登録されている電話番号が選択できます。
5	追加ボタン	データの追加を行います。
6	修正ボタン	データの修正を行います。
7	初期化ボタン	ダイアルアウトの初期化を行います。

## 4-7 番号ルール設定例

本製品は、着信時にPBXに任意の番号を送信できます。(ダイヤルイン)

また、発信時には、PBXより送信された番号を識別して、個別発信番号通知ができます。(ダイヤルアウト)



ダイヤルイン・ダイヤルアウトを行うには  
PBX側にも設定が必要になります。

## ダイヤルイン (着信ルール)

ダイヤルインの設定に必要なものは『ダイヤルイン番号』、『ISDN送信番号の設定』です。

- ① 設定メニューから『IP電話の設定』『IP電話設定』をクリックします。  
表示された画面の下方にある『番号設定』ボタンをクリックします。
- ② 『電話番号』に『ダイヤルイン番号』を入力します。
- ③ ISDNへ送信する、『ISDN着番号』『ISDN着サブアドレス』を選択します。

※ISDN送信番号の動作は、次ページの表をご確認下さい。

◆番号情報の設定	
電話番号	② 03XXXX1111
通知番号	03XXXX1111
◆番号ルールの設定	
ISDN着番号	③ 固定値を送信 031111
ISDN着サブアドレス	送信しない
ISDN発信番号	送信しない
ISDN発信サブアドレス	送信しない
VoIP発信番号	通知
VoIP発信条件	指定なし/番号ルール依存
VoIP発信数制限	制限なし
VoIP着信数制限	制限なし
発信制限数のグループ化	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
利用ポート指定	指定しない
番号のレジスター	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
VoIP発信	<input checked="" type="radio"/> 許可する <input type="radio"/> 特定のルール以外許可しない
<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="修正"/> <input type="button" value="初期化"/> <input type="button" value="状態"/> <input type="button" value="サーバ"/>	

設定を行うには、PBXにどのような『着番号』『着サブアドレス』を送信するかを決める必要があります。  
 以下の表は、本製品の『ISDN 送信番号』の設定によって、どのような番号をPBXに送信するかを示しています。

(例) 相手が『03123456』または『03123456 \* 200』とダイヤルした場合の、PBX への送信番号

■相手がダイヤルした番号が『03123456』の場合

	本製品の設定		PBX に送信する番号	
	『ISDN 着番号』	『ISDN 着サブアドレス』	着番号	着サブアドレス
①	送信しない	送信しない	送信しません	送信しません
		透過	送信しません	送信しません
		着番号送信	送信しません	03123456
		固定値送信	送信しません	ISDN 着サブアドレス
②	透過	送信しない	03123456	送信しません
		透過	03123456	送信しません
		着番号送信	03123456	03123456
		固定値送信	03123456	ISDN 着サブアドレス
③	着サブ アドレス送信	送信しない	送信しません	送信しません
		透過	送信しません	送信しません
		着番号送信	送信しません	03123456
		固定値送信	送信しません	ISDN 着サブアドレス
④	固定値送信	送信しない	ISDN 着番号	送信しません
		透過	ISDN 着番号	送信しません
		着番号送信	ISDN 着番号	03123456
		固定値送信	ISDN 着番号	ISDN 着サブアドレス

ISDN 着番号の送信動作：

- ①『送信しない』を選択すると、PBXには着番号を送信しません。
- ②『透過』を選択すると、着信した番号 03123456 をそのまま着番号としてPBXに送信します。
- ③『着サブアドレス送信』を選択すると、PBXには着番号を送信しません。
- ④『固定値送信』を選択すると、入力した『ISDN 着番号』を着番号としてPBXに送信します。

ISDN 着サブアドレスの送信動作：

- ①『送信しない』を選択すると、PBXには着サブアドレスを送信しません。
- ②『透過』を選択すると、PBXには着サブアドレスを送信しません。
- ③『着番号送信』を選択すると、着信した番号 03123456 を着サブアドレスとしてPBXに送信します。
- ④『固定値送信』を選択すると、入力した『ISDN 着サブアドレス』を着サブアドレスとしてPBXに送信します。

## ■相手がダイヤルした番号が『03123456\*200』の場合

	本製品の設定		PBX に送信する番号	
	『ISDN 着番号』	『ISDN 着サブアドレス』	着番号	着サブアドレス
①	送信しない	送信しない	送信しません	送信しません
		透過	送信しません	200
		着番号送信	送信しません	03123456
		固定値送信	送信しません	ISDN 着サブアドレス
②	透過	送信しない	03123456	送信しません
		透過	03123456	200
		着番号送信	03123456	03123456
		固定値送信	03123456	ISDN 着サブアドレス
③	着サブアドレス送信	送信しない	200	送信しません
		透過	200	200
		着番号送信	200	03123456
		固定値送信	200	ISDN 着サブアドレス
④	固定値送信	送信しない	ISDN 着番号	送信しません
		透過	ISDN 着番号	200
		着番号送信	ISDN 着番号	03123456
		固定値送信	ISDN 着番号	ISDN 着サブアドレス

## ISDN 着番号の送信動作：

- ①『送信しない』を選択すると、PBX には着番号を送信しません。
- ②『透過』を選択すると、着信した番号 03123456 をそのまま着番号として PBX に送信します。
- ③『着サブアドレス送信』を選択すると、着信したサブアドレス 200 を着番号として PBX に送信します。
- ④『固定値送信』を選択すると、入力した『ISDN 着番号』を着番号として PBX に送信します。

## ISDN 着サブアドレスの送信動作：

- ①『送信しない』を選択すると、PBX には着サブアドレスを送信しません。
- ②『透過』を選択すると、着信したサブアドレス 200 をそのまま着サブアドレスとして PBX に送信します。
- ③『着番号送信』を選択すると、着信した番号 03123456 を着サブアドレスとして PBX に送信します。
- ④『固定値送信』を選択すると、入力した『ISDN 着サブアドレス』を着サブアドレスとして PBX に送信します。



以下に具体例を記載します。

### 着信ルールの設定

#### 1. ダイヤルインの設定を行う

IP電話番号=PBX設定番号の場合、以下のようにダイヤルイン設定を行います。

- ① ダイヤルインを行う IP 電話番号の『ISDN 着番号』を『透過』に設定します。  
(サブアドレスも着信した値で送る場合は『ISDN 着サブアドレス』も『透過』にします)
- ② 設定した IP 電話番号に着信すると PBX に IP 電話番号をそのまま送信します。

◆番号情報の設定	
電話番号	03XXXXX1111
通知番号	03XXXXX1111
◆番号ルールの設定	
ISDN着番号	透過
ISDN着サブアドレス	透過
ISDN発信番号	送信しない
ISDN発信サブアドレス	送信しない
VoIP発信番号	通知
VoIP発信条件	指定なし/番号ルール依存
VoIP発信数制限	制限なし
VoIP着信数制限	制限なし
発信制限数のグループ化	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
利用ポート指定	指定しない
番号のレジスター	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
VoIP発信	<input checked="" type="radio"/> 許可する <input type="radio"/> 特定のルール以外許可しない



2. ダイヤルインの設定を行う

IP電話番号≠PBX設定番号の場合、以下のようにダイヤルイン設定を行います。

- ① ダイヤルインを行う IP 電話番号の『ISDN 着番号』を『固定値送信』に設定します。  
(サブアドレスと関連付ける場合、『ISDN 着サブアドレス』を『固定値送信』に設定します)
- ② IP 電話番号と PBX 側の関連付ける番号(着番号として設定されている番号)を『ISDN 着番号』の右欄に、サブアドレスと関連付ける場合は『ISDN 着サブアドレス』の右欄に入力します。  
※着番号、サブアドレスは両方設定しても構いません。その場合両方を送ります。
- ③ 設定した IP 電話番号に着信すると、PBX に設定した番号、サブアドレスを送出します。

◆番号情報の設定  
 電話番号 03XXXX1111  
 通知番号 03XXXX1111

◆番号ルールの設定

ISDN着番号	① 固定値を送信	② 03111
ISDN着サブアドレス	送信しない	
ISDN発信番号	送信しない	
ISDN発信サブアドレス	送信しない	
VoIP発信番号	通知	
VoIP発信条件	指定なし/番号ルール依存	
VoIP発信数制限	制限なし	
VoIP着信数制限	制限なし	
発信制限数のグループ化	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない	
利用ポート指定	指定しない	
番号のレジスター	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない	
VoIP発信	<input checked="" type="radio"/> 許可する <input type="radio"/> 特定のルール以外許可しない	

追加 修正 初期化 状態 サーバ



3. 代表番号として扱う

番号を代表番号として扱う場合、以下のように設定を行います。

- ①代表番号にする IP 電話番号の『ISDN 着番号』『ISDN 着サブアドレス』を『送信しない』にします。
- ②設定した IP 電話番号に着信すると、PBX には何も番号を送信しないので回線に対して着信するイメージになります。

※PBX 側で、着番号がこない場合は代表番号(回線番号)とする設定確認が必要です。

◆番号ルールの設定	
ISDN着番号	① 送信しない
ISDN着サブアドレス	送信しない
ISDN発信番号	送信しない
ISDN発信サブアドレス	送信しない
VoIP発信番号	通知
VoIP発信条件	指定なし/番号ルール依存
VoIP発信数制限	制限なし
VoIP着信数制限	制限なし
発信制限数のグループ化	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
利用ポート指定	指定しない
番号のレジスター	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
VoIP発信	<input checked="" type="radio"/> 許可する <input type="radio"/> 特定のルール以外許可しない

追加 修正 初期化 状態 サーバ



### 発信ルールの設定

1. 発信する番号をPBX側の番号に関連付ける

ダイヤルイン番号を固定値に設定した場合、その番号で発信も行うことができます。

(通知される番号もダイヤルインと関連付けしたIP電話番号にしたい場合)

- ① ダイヤルイン設定（固定値を送信）をします。
- ② VoIP発信条件を『ISDN送信値と同値受信時』を選択します。
- ③ 設定したISDN着番号/サブアドレスがPBX側から送信されてきた場合、関連付けしたIP電話番号から発信を行います。

※ ISDN送信番号に同じ固定値の設定されたIP電話番号が2個以上登録されている場合、一覧で上位にある番号が優先となります。

◆番号情報の設定

電話番号

通知番号

---

◆番号ルールの設定

ISDN着番号 ①

ISDN着サブアドレス

ISDN発番号

ISDN発サブアドレス

VoIP発番号

VoIP発信条件 ②

VoIP発信数制限

VoIP着信数制限

発着制限数のグループ化  する  しない

利用ポート指定

利用チャンネル  ISDN0-B1  ISDN0-B2  ISDN1-B1  ISDN1-B2

番号のレジスター  する  しない

VoIP発信  許可する  特定のルール以外許可しない



2. 発信する番号をPBX側の番号に関連付ける

ダイヤルイン設定が固定値でない場合、ダイヤルアウト設定画面で設定を行います。

- ① 設定メニューの『番号ルール』『ダイヤルアウト(発番選択)設定』をクリックします。
- ② ISDNから送信されてくる発番号、発サブアドレスを入力します。
- ③ 関連付けるIP電話番号を『VoIP側発信番号』から選択します。
- ④ ダイヤルアウトの設定を行うとIP電話番号画面のVoIP発信が『特定のルール以外許可しない』に自動設定されます。※代表発信も同時に行う場合はチェックを『許可する』にします。
- ⑤ 『VoIP発信条件』で『指定なし/番号ルール依存』が選択されていることを確認します。



## 4-8 発信付加プレフィックスの設定

短縮ダイヤルなどの設定が行えます。

- ① 設定メニューから、『番号ルールの設定』『発信付加プレフィックスの設定』をクリックします。
- ② 『ISDN 着番号プレフィックス』に、発信番号のプレフィックスを入力します。
- ③ 『変換文字列』に、入力したプレフィックスに置換する文字列を入力します。
- ④ 『追加』ボタンを押してエントリを登録します。

発信付加プレフィックスの設定

分類 ITSP番号 ▼

ISDN着番号プレフィックス

変換文字列

No.	項目	説明
1	分類	発信プレフィックス設定を行うサーバを選択します。
	● 拠点間番号	EG2004TX-BRI 間の通話で発信プレフィックスを行う場合に選択します。
	● ITSP 番号	ITSP 番号で発信プレフィックスを行う場合に選択します。
2	ISDN 着番号プレフィックス	PBX から送信される ISDN 着番号のプレフィックスを入力します。
3	変換文字列	変換する文字列を入力します。
4	追加ボタン	データの追加を行います。
5	修正ボタン	データの修正を行います。
6	初期化ボタン	発信付加プレフィックス設定の初期化を行います。

## 4-9 SIP 着信拒否番号の設定

SIP 側の着信で、特定の番号、非通知番号などを拒否する場合に設定します。

- ① 設定メニューから、『番号ルールの設定』『SIP 着信拒否番号の設定』をクリックします。
- ② 着信拒否を設定する IP 電話番号を『ユーザ ID』に入力します。
- ③ 着信拒否対象を『拒否番号』で選択・入力します。
- ④ 着信拒否先に返送するコードを『返却コード』で選択します。
- ⑤ 『追加』ボタンを押してエントリを登録します。

SIP着信拒否番号の設定

---

分類 ITSP番号 ▼

ユーザID

拒否番号 
 全て
  非通知
  サービス競合
  公衆電話
  非通知不明  
 番号指定

返却コード 404 ▼

No.	項目	説明	
1	分類	着信拒否を行うサーバを選択します。	
	● 拠点間番号	EG2004TX-BRI 間の通話で着信拒否を行う場合に選択します。	
	● ITSP 番号	ITSP サーバで着信拒否を行う場合に選択します。	
2	ユーザ ID	自端末に登録したユーザ ID を選択します。 選択した番号に対しての着信に対し、設定が有効になります。	
	3	拒否番号	着信拒否する対象を選択、または番号登録をします。
		● 全て	全ての着信を拒否します。
		非通知	非通知の番号からの着信を拒否します。
		サービス競合	非通知(サービス競合)の番号からの着信を拒否します。
		公衆電話	非通知(公衆電話)の番号から着信を拒否します。
		非通知不明	非通知(非通知理由不明)の番号からの着信を拒否します。
● 番号指定	右欄に入力した番号からの着信を拒否します。		
4	返却コード	相手に返送するコードを設定します。 404, 406, 408, 480, 486, 488, 600, 603 の中から選択	
5	追加ボタン	データの追加を行います。	
6	修正ボタン	データの修正を行います。	
7	初期化ボタン	SIP 着信拒否番号の初期化を行います。	

## 4-10 ISDN 着信拒否番号の設定

ISDN 側からの着信で、特定の番号、非通知番号などを拒否する場合に設定します。

- ① 設定メニューから、『番号ルールの設定』『ISDN 着信拒否番号の設定』をクリックします。
- ② 着信拒否を設定する番号を『ISDN 着番号』に入力します。
- ③ 着信拒否対象を『拒否番号』で選択・入力します。
- ④ 『追加』ボタンを押してエントリを登録します。

ISDN着信拒否番号の設定

---

ISDN着番号

拒否番号

全て
  非通知
  サービス競合
  公衆電話
  非通知不明
  番号指定

No.	項目	説明
1	分類	着信拒否を行うサーバを選択します。
	<input type="checkbox"/> 拠点間番号	EG2004TX-BRI 間の通話で着信拒否を行う場合に選択します。
	<input checked="" type="checkbox"/> ITSP 番号	ITSP サーバで着信拒否を行う場合に選択します。
2	ユーザ ID	自端末に登録したユーザ ID を選択します。 選択した番号に対しての着信に対し、設定が有効になります。
3	拒否番号	着信拒否する対象を選択、または番号登録をします。
	<input type="checkbox"/> 全て	全ての着信を拒否します。
	<input type="checkbox"/> 非通知	非通知(ユーザ設定)の番号からの着信を拒否します。
	<input type="checkbox"/> サービス競合	非通知(サービス競合)の番号からの着信を拒否します。
	<input type="checkbox"/> 公衆電話	非通知(公衆電話)の番号から着信を拒否します。
	<input type="checkbox"/> 非通知不明	非通知(非通知理由不明)の番号からの着信を拒否します。
<input checked="" type="checkbox"/> 番号指定	右欄に入力した番号からの着信を拒否します。	
4	追加ボタン	データの追加を行います。
5	修正ボタン	データの修正を行います。
6	初期化ボタン	ISDN 着信拒否番号の初期化を行います。



## 5章 ルータ機能の設定

この章では、本製品のルータ機能設定画面の利用方法について解説します。

### 5-1 WANポートの設定

本製品のWANポートの設定を行う場合設定します。

接続方法は次の3種類あります：『PPPoE接続を利用』『固定IPを利用』『DHCPを利用』

#### PPPoE接続を利用する場合

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『WANポートの設定』をクリックします。
- ② 接続方法に『PPPoE接続を利用』を選択します。
- ③ プライマリアカウントの『接続先ユーザID』、『接続先パスワード』を入力します。
- ④ DNSサーバを自動取得する場合は『自動的に取得』を選択します。、アドレス指定する場合は『アドレスを指定』を選択してプライマリ、セカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑤ マルチセッションを行う場合、セカンダリアカウントの『接続先ユーザID』、『接続先パスワード』を入力し、セカンダリアカウントを利用するサービスポートを選択します。
- ⑥ 『設定』ボタンを押します。

WANポートの設定

接続方法

◆プライマリアカウント

接続用ユーザID

接続用パスワード

DNSサーバ  アドレスを指定  自動的に取得

プライマリDNS

セカンダリDNS

◆セカンダリアカウント(マルチセッション用)

接続用ユーザID

接続用パスワード

利用ポート  SMTP  POP3  HTTP  HTTPS  DNS  FLETS

No.	項目	説明
1	接続方法*	『PPPoE 接続を利用』を選択します。
2	接続用ユーザ ID* 接続用パスワード*	プロバイダから発行されている PPPoE の接続用ユーザ ID、接続用パスワードを入力します。
3	DNS サーバ	DNS サーバについての設定を行います。
	<input type="radio"/> アドレスを指定	DNS サーバの固定 IP アドレスを入力します。
	<input checked="" type="radio"/> 自動的に取得	DNS サーバのアドレス情報を PPPoE サーバから取得します。
4	プライマリ DNS セカンダリ DNS	DNS サーバに『アドレスを指定』を選択した場合、DNS サーバの IP アドレスを入力します。
5	接続用ユーザ ID 接続用パスワード	マルチセッションで使用する PPPoE の接続用ユーザ ID、接続用パスワードを入力します。
6	利用ポート	マルチセッションで利用するサービスにチェックを入れます。
7	設定ボタン	設定を保存します。反映は電源の OFF/ON、または (ID、パスワード変更の場合) ルータ情報の確認から行います。
8	初期化	WAN ポートの設定を初期化します。

## 固定 IP アドレスを利用する場合

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『WAN ポートの設定』をクリックします。
- ② 接続方法に『固定 IP アドレスを利用』を選択します。
- ③ WAN ポートに設定する『IP アドレス』、『サブネットマスク』、『デフォルトゲートウェイ』を入力します。
- ④ SIP サーバの IP アドレスがドメインなどの場合、プライマリ、セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。
- ⑤ 『設定』ボタンを押します。

WANポートの設定

接続方法 固定IPアドレスを利用 ▼

IPアドレス

サブネットマスク

デフォルトゲートウェイ

プライマリDNS

セカンダリDNS

No.	項目	説明
1	接続方法*	『固定 IP アドレスを利用』を選択します。
2	IP アドレス*	WAN ポートに割り振る IP アドレスを設定します。
3	サブネットマスク	IP アドレスのサブネットマスクを選択します。
4	デフォルトゲートウェイ*	デフォルトゲートウェイを設定します。
5	プライマリ/セカンダリ DNS	DNS サーバを利用する場合はそのアドレスを入力します
6	設定ボタン	設定を保存します。電源の OFF/ON により設定が反映されます。
7	初期化	WAN ポートの設定を初期化します。

## DHCP を使用する場合

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『WAN ポートの設定』をクリックします。
- ② 接続方法で『DHCP を利用』を選択します。
- ③ DHCP サーバのタイムアウト値を設定します。
- ④ DNS サーバを自動取得する場合は『自動的に取得』を選択します。、アドレス指定する場合は『アドレスを指定』を選択してプライマリ、セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。
- ⑤ 『設定』 ボタンを押します。

WANポートの設定

---

接続方法 DHCPを利用 ▼

タイムアウト値

DNSサーバ  アドレスを指定  自動的に取得

プライマリDNS

セカンダリDNS

No.	項目	説明
1	接続方法	『DHCP を利用』を選択します。
2	タイムアウト値	DHCP サーバのタイムアウト値を入力します。
3	DNS サーバ	DNS サーバ情報を設定します。
	<input type="radio"/> アドレスを指定	DNS サーバの固定 IP アドレスを入力します。
	<input checked="" type="radio"/> 自動的に取得	DNS サーバのアドレス情報を DHCP サーバから取得します。
4	プライマリ DNS セカンダリ DNS	DNS サーバに『アドレスを指定』を選択した場合、DNS サーバの IP アドレスを入力します。
5	設定	設定を保存します。電源の OFF/ON により設定が反映されます。
6	初期化	WAN ポートの設定を初期化します。

**5-2 LANポートの設定**

LANポートの設定を行います。

※WANポートと同じネットワークに属するアドレスを割り振ることはできません。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『LANポートの設定』をクリックします。
- ② LANポートに設定する『IPアドレス』と『サブネットマスク』を入力、選択します。
- ③ 『設定』ボタンを押します。

LANポートの設定

IPアドレス

サブネットマスク

No.	項目	説明
1	IPアドレス	『LANポート』に割り振るIPアドレスを設定します。
2	サブネットマスク	IPアドレスのサブネットマスクを選択します。
3	設定	設定を保存します。電源のOFF/ONにより設定が反映されます。

## 5-3 DHCP サーバの設定

本製品の LAN 側にパソコンを接続する際、パソコンに自動的にアドレスを割り振る場合に設定します。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『DHCP サーバの設定』をクリックします。
- ② DHCP サーバ機能を使用する場合、『利用する』を選択します。
- ③ DHCP サーバが割り当てる IP アドレスの先頭アドレスと割り当て個数を入力します。
- ④ プライマリ、セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。
- ⑤ 『設定』ボタンを押します。

**DHCPサーバの設定**

---

DHCPサーバ       利用しない    利用する

割り当て先頭アドレス      192.168.0.128

割り当て個数      127

プライマリDNSアドレス      203.216.70.70

セカンダリDNSアドレス      203.216.70.71

No.	項目	説明
1	DHCP サーバ	DHCP サーバを利用する場合は「利用する」を選択します。
2	割り当て先頭アドレス	DHCP サーバがパソコンに割り当てる IP アドレスの先頭アドレスを設定します。
3	割り当て個数	先頭アドレスから割り当てることが出来る個数を設定します。
4	プライマリ DNS アドレス セカンダリ DNS アドレス	DNS サーバの IP アドレスを入力します。

### 5-4 プロキシ DNS の設定

本製品をプロキシ DNS として利用する場合に設定します。

プロキシ DNS 機能を使用すると、本製品の LAN 側に接続したパソコンの DNS サーバに本製品の LAN 側 IP アドレスを設定することで、パソコンから名前解決が行えます。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『プロキシ DNS の設定』をクリックします。
- ② プロキシ DNS サーバ機能を使用する場合、『利用する』を選択します。
- ③ 『設定』ボタンを押します。



プロキシDNSの設定

プロキシDNS  利用しない  利用する

設定

No.	項目	説明
1	プロキシ DNS	プロキシ DNS 機能を利用する場合は「利用する」を選択します。
2	設定	設定を保存します。

## 5-5 SNMP の設定

SNMP によるシステム監視機能を利用する場合に設定します。SNMP マネージャは最大 3 個登録できます。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『SNMP の設定』をクリックします。
- ② システム監視機能を利用する場合、『利用する』を選択します。
- ③ SNMP マネージャの接続方向 (LAN 側/WAN 側)、IP アドレス、マスク長、コミュニティ名を入力します。
- ④ 本製品からの Trap 送出手を行う場合、『行う』を選択します。
- ⑤ 『設定』ボタンを押します。

SNMPの設定

SNMP機能  利用しない  利用する

◆SNMPマネージャ1

接続  LAN側  WAN側

IPアドレス/マスク長  /

コミュニティ名

Trapの送出  行わない  行う

◆SNMPマネージャ2

接続  LAN側  WAN側

IPアドレス/マスク長  /

コミュニティ名

Trapの送出  行わない  行う

◆SNMPマネージャ3

接続  LAN側  WAN側

IPアドレス/マスク長  /

コミュニティ名

Trapの送出  行わない  行う

No.	項目	説明
1	SNMP 機能	SNMP 機能を使用する場合『利用する』を選択します。
2	SNMP マネージャ	SNMP マネージャの設定を行います。
	接続	SNMP マネージャの存在するネットワークの方向を選択します。
	<input checked="" type="radio"/> LAN 側	マネージャへ Trap 送信時、自アドレスとして LAN 側 IP を送信します。
	<input type="radio"/> WAN 側	マネージャへ Trap 送信時、自アドレスとして WAN 側 IP を送信します。
	IP アドレス/マスク長	SNMP マネージャの IP アドレスと、所属するネットワークのマスク長を入力します。
	コミュニティ名	コミュニティ名を入力します。空欄の場合 public が自動入力されます。
	Trap の送出	このマネージャに対する、本製品からの Trap 送出手設定を選択します。
<input checked="" type="radio"/> 行わない	Trap 送出手を行いません。	
<input type="radio"/> 行う	Trap 送出手を行います。	
3	設定	設定を保存します。

## 5-6 NATの設定(静的IPマスカレード)

本製品のLAN側にWEBサーバなどを設置する場合、外部からのアクセスを可能にするために設定します。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『NATの設定(静的IPマスカレード)』をクリックします。
- ② 新しくエントリを追加する場合、『新規追加』をクリックします。
- ③ IPマスカレードを行うパケットの『プロトコル』と『対象ポート』を設定します。
- ④ 転送先となる、『変換アドレス』『変換ポート』を入力します。
- ⑤ 『設定』ボタンを押すと、設定が保存されます。
- ⑥ 全ての設定が完了したら、『反映』ボタンを押して装置に設定を反映します。

NATの設定(静的IPマスカレード)

プロトコル

対象ポート

変換アドレス

変換ポート  (ポート変換時のみ)

プロトコル	対象ポート	変換アドレス	変換ポート	コマンド
tcp	80	192.168.0.99	*	[編集] [削除]
新規追加				

※「変換ポート」ポート変換する時のみ設定を入れて下さい。  
ポート変換しなければ設定を入れる必要はありません。

設定項目は再起動後、有効になります。  
全ての設定が終了後、電源のOFF・ONをおこなってください。

No.	項目	説明
1	プロトコル	NATの設定を行うプロトコルを選択します。 「全て」「ICMP」を選択した場合、対象/変換ポート指定は出来ません。
	● 全て	全てのプロトコルを設定する場合に選択します。
	TCP	TCPのプロトコルを設定する場合に選択します。
	UDP	UDPのプロトコルを設定する場合に選択します。
	ICMP	ICMPのプロトコルを設定する場合に選択します。
2	対象ポート	WAN側から受信するポート番号を入力します。
3	変換アドレス	変換対象のLAN側のIPアドレスを入力します。
4	変換ポート	LAN側に送信するポート番号を入力します。 ※WAN側から受信するポートと同一の場合は入力する必要はありません。
5	設定	入力した設定で、NAT情報にエントリを追加します。
6	反映	NAT設定を反映します。



## 5-7 IPフィルタリングの設定

本製品は初期状態でWAN側からのアクセスは必要最低限以外禁止としています。

WAN側からのアクセスを許可、またはLAN側から外部へのアクセスを禁止する場合、IPフィルタリングの設定を行います。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『IPフィルタリングの設定』をクリックします。
- ② 新しくエントリを追加する場合、『新規追加』をクリックします。
- ③ 設定するポリシーの『制御』『プロトコル』、送信元、送信先の『IPアドレス』『マスク長』『ポート』を設定します。
- ④ 『設定』ボタンを押すと、設定が保存されます。
- ⑤ 全ての設定が完了したら、『反映』ボタンを押して装置に設定を反映します。

IPフィルタリングの設定

---

制御 WAN側からのアクセス許可

プロトコル TCP

送信元IPアドレス/マスク長 123.23.123.120 / 29 ポート \*

送信先IPアドレス/マスク長 \* /  ポート 23

設定
初期化
反映

IF	制御	プロトコル	送信元アドレス	送信元ポート	送信先アドレス	送信先ポート	コマンド
WAN	許可	tcp	123.23.123.120/29	*	*	23	[編集] [削除]
新規追加							

※初期状態でWAN側は全て遮断、LAN側は全て許可に設定されています。

設定項目は再起動後、有効になります。  
全ての設定が終了後、電源のOFF・ONをおこなってください。

No.	項目	説明
1	制御	フィルタリングの対象を選択します。
	● WAN側アクセス許可	WAN側からのアクセスを許可します。
	WAN側アクセス拒否通知	WAN側からのアクセスに対し、「アクセス拒否」を通知します。
	LAN側アクセス遮断	LAN側からの外部アクセスを遮断します。
	LAN側アクセス拒否通知	LAN側からの外部アクセスに対し、「アクセス拒否」を通知します。
2	プロトコル	対象のプロトコルを「全て、TCP、UDP、ICMP」から選択します。 「全て、ICMP」を選択した場合は、「送信元、送信先」のポート指定は出来ません。
3	送信元 IPアドレス/マスク長	フィルタリング対象の送信元IPアドレスとマスク長を設定します。 同様に、ポートを0~65535のポート番号を指定します。 コロン「:」で区切って範囲指定も可能です。
4	送信先 IPアドレス/マスク長	フィルタリング対象の送信先IPアドレスとマスク長を設定します。 同様に、ポートを0~65535のポート番号を指定します。 コロン「:」で区切って範囲指定も可能です。
5	設定	入力した設定で、フィルタリング情報にエントリを追加します。
6	初期化	フィルタリング設定を初期状態へ戻します。
7	反映	フィルタリング設定を反映します。



システムポートや音声ポートの設定には十分注意してください。  
間違った設定を行うと音声やシステムに影響が出る恐れがあります。

## 5-8 QoS の設定

本製品の LAN 側にパソコンを複数台接続する場合や、回線速度が遅い場合、IP 通話の音声に影響が出ることがあります。

その場合、QoS を利用する事により IP 電話のデータを優先的に送出し、音声の安定化を計ります。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『QoS の設定』をクリックします。
- ② QoS 機能を使用する場合、『利用する』を選択します。
- ③ 上り、下りの帯域実測値をそれぞれ入力します。単位は kbps です。
- ④ 『設定』ボタンを押し、設定を保存します。

QoSの設定

---

音声トラフィック優先制御     利用する     利用しない

帯域(下り実測値)             kbps

帯域(上り実測値)             kbps

---

・設定項目は再起動後、有効になります。  
 ・全ての設定が終了後、電源のOFF・ONをおこなってください。

No.	項目	説明
1	音声トラフィック優先制御	QoS を利用する場合は『利用する』を選択します。
2	帯域	ゲートウェイの LAN 側から計測した通信速度を入力します。
3	設定	設定を保存します。

## 5-9 ダイナミック DNS の設定

端末に外部からアクセスを行う場合、IP アドレスではなくドメインでアクセスしたいときに DDNS を利用します。DDNS を利用すると、動的 IP アドレスが割り振られている装置においても固定のドメインによるアクセスが可能になります。

本設定を行う前に、当該ダイナミック DNS サービスへの登録を行ってください。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『ダイナミック DNS の設定』をクリックします。
- ② 『ダイナミック DNS サーバ』で、使用する DDNS サービスを選択します。
- ③ DDNS サービスに登録した各情報を入力します。
- ④ 『設定』ボタンを押し、設定を保存します。

ダイナミックDNSの設定

---

ダイナミックDNSサーバ

Hostname

UserID

Password

---

**※注意**  
「実行」を必要以上に行わないで下さい。  
連続で行うと、ダイナミックDNSサーバ側の保護機能により、  
ユーザが止められる恐れがあります。

ダイナミックDNSの設定はインターネットに接続している  
環境で行うようにして下さい。

No.	項目	説明
1	ダイナミック DNS サーバ	ダイナミック DNS サーバを選択します。
	● 利用しない	ダイナミック DNS を利用しない場合に選択します。
	Dyn DNS. org	Dyn DNS. org を利用する場合に選択します。
2	Hostname User ID Password	ダイナミック DNS サーバに登録した『Hostname』『User ID』『Password』を入力します。
3	設定	設定を保存します。

## 5-10 スタティックルートの設定

スタティックルートの設定を行います。

ご利用のネットワークでルーティングが必要な場合に設定します。

※スタティックルートは LAN ポートに対してのみ行うことができます。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『スタティックルートの設定』をクリックします。
- ② 新たなエントリを設定する場合、『新規追加』をクリックします。
- ③ ルーティングする『宛先アドレス/マスク長』、送信先である『ゲートウェイアドレス』を入力します。
- ④ ゲートウェイまでの『ホップカウント』を選択します。
- ⑤ 『設定』ボタンを押し、設定を保存します。

スタティックルートの設定

---

宛先アドレス/マスク長  /

ゲートウェイアドレス

ホップカウント

宛先アドレス/マスク長	ゲートウェイアドレス	ホップカウント	コマンド
新規追加			

設定項目は再起動後、有効になります。  
全ての設定が終了後、電源のOFF・ONをおこなってください。

No.	項目	説明
1	宛先アドレス*/マスク長*	スタティックルートを適用するアドレス、マスク長を入力します。
2	ゲートウェイアドレス*	ルーティングするゲートウェイアドレスを入力します。
3	ホップカウント	ホップカウントを選択します。
4	設定	設定を保存します。

## 5-11 マルチセッション時のルーティング設定

マルチセッションを使用した場合に、「WAN ポートの設定」ではできないルーティング設定を個別に行えます。

- ① 設定メニューから、『ルータ機能の設定』『ルーティングの設定(マルチセッション時)』をクリックします。
- ② 新たなエントリを設定する場合、『新規追加』をクリックします。
- ③ セカンダリアカウントへルーティングする『プロトコル』、送信元/送信先の『IP アドレス/マスク長』、『ポート番号』を入力します。
- ④ 『設定』ボタンを押し、設定を保存します。

ルーティングの設定 (マルチセッション時)

セカンダリアカウントをデフォルトゲートウェイに設定するポリシーを設定します。

プロトコル 全て ▼

送信元IPアドレス/マスク長  /  ポート

送信先IPアドレス/マスク長  /  ポート

設定 初期化

プロトコル	送信元アドレス	送信元ポート	送信先アドレス	送信先ポート	コマンド
icmp	*	*	*	*	<a href="#">[編集]</a> <a href="#">[削除]</a>
新規追加					

※1.初期状態でプライマリアカウントがデフォルトゲートウェイになります。  
 ※2.IP電話はプライマリアカウントを利用します。  
 設定項目は再起動後、有効になります。  
 全ての設定が終了後、電源のOFF・ONをおこなってください。

No.	項目	説明
1	プロトコル	対象のプロトコルをから選択します。
	TCP	TCP のプロトコルを設定する場合に選択します。
	UDP	UDP のプロトコルを設定する場合に選択します。
	ICMP	ICMP のプロトコルを設定する場合に選択します。
	● 全て	全てのプロトコルを設定する場合に選択します。
2	送信元 IP アドレス/マスク長 ポート	ルーティング対象の送信元 IP アドレスとマスク長を設定します。 同様に、ポートを 0~65535 のポート番号を指定します。 コロン「:」で区切って範囲指定も可能です。
3	送信先 IP アドレス/マスク長 ポート	ルーティング対象の送信元 IP アドレスとマスク長を設定します。 同様に、ポートを 0~65535 のポート番号を指定します。 コロン「:」で区切って範囲指定も可能です。
4	設定	設定を保存します。
5	初期化	マルチセッションのルーティング設定を初期化します。

## 6章 管理機能

この章ではルータ設定、IP電話設定以外の管理用画面の利用方法について解説します。

### 6-1 複数台接続の設定

本製品を複数台接続の親機として使用する場合に、利用する子機の設定を行います。

子機は5台まで接続可能です。

子機の設定を行うと、親機側に自動的に子機の利用ポートがマッピングされます。

- ① 設定メニューから、『管理機能』『複数台接続の設定』をクリックします。
- ② 接続台数分の子機にチェックを入れます。
- ③ 子機のWAN側IPアドレスを入力します。
- ④ 設定ボタンを押します。

複数台接続の設定(利用子機ポートマッピングの設定)

接続する子機を選択し、そのWAN側アドレスを入力してください。

接続子機	接続機種	WAN側IPアドレス
<input type="checkbox"/> 子機1	BRI	<input type="text" value="192.168.0.101"/>
<input type="checkbox"/> 子機2	BRI	<input type="text" value="192.168.0.102"/>
<input type="checkbox"/> 子機3	BRI	<input type="text" value="192.168.0.103"/>
<input type="checkbox"/> 子機4	BRI	<input type="text" value="192.168.0.104"/>
<input type="checkbox"/> 子機5	BRI	<input type="text" value="192.168.0.105"/>

No.	項目	説明
1	接続子機	接続する子機にチェックを入れます。
2	接続機種	子機の機種はBRI限定です。
3	WAN側IPアドレス*	子機端末のWAN側IPアドレスを入力します。 「①接続子機」でチェックを付いている所しか設定されません。
4	設定	設定を保存します。

## 6-2 PING テスト

本製品から外部端末に向けてPINGのテストを行えます。

- ① 設定メニューから、『管理機能』『PINGテスト』をクリックします。
- ② PINGの送信先アドレスを入力します。
- ③ PINGの送信回数を選択します。
- ④ 『実行』ボタンを押します。

PINGテスト

---

IPアドレス

送信回数

---

```

PING 192.168.10.40 (192.168.10.40) from 192.168.10.202 : 56(84) bytes of data.
64 bytes from 192.168.10.40: icmp_seq=1 ttl=255 time=0.869 ms
64 bytes from 192.168.10.40: icmp_seq=2 ttl=255 time=0.614 ms
64 bytes from 192.168.10.40: icmp_seq=3 ttl=255 time=0.627 ms

— 192.168.10.40 ping statistics —
3 packets transmitted, 3 received, 0% loss, time 2021 ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.614/0.703/0.869/0.119 ms

```

No.	項目	説明
1	IP アドレス*	PINGを行う相手IPアドレスを入力します。
2	送信回数	送信回数を選択します。1～10回まで選択できます。
3	実行	PINGを実行します。

## 6-3 現在時刻の設定

ログなどの詳細データに表示される時刻と合わせるために、本製品に現在時刻を設定します。

※再起動を行うと設置した時間が初期化されますのでご注意ください。

- ① 設定メニューから、『管理機能』『現在時刻の設定』をクリックします。
- ② 現在時刻を入力、選択します。
- ③ 『設定』ボタンを押します。

現在時刻の設定

---

現在の時刻      2005年 6 月 15 日 15 時 46 分

No.	項目	説明
1	現在の時刻（年）*	現在の年数を入力します。
	月	現在月を選択します。
	日	現在日を選択します。
	時	現在時を選択します。
	分	現在分を選択します。



装置が動作中に時刻の変更をおこないますと、装置ログ、電話機能のタイマに影響を及ぼす場合がありますので絶対に行わないでください。



## 6-4 時刻同期サーバの設定

機器が正確な時刻を保持できるように、時刻同期サーバの設定を行います。

- ① 設定メニューから、『管理機能』『時刻同期サーバの設定』をクリックします。
- ② NTPサーバのIPアドレスを設定し『追加』ボタンを押します。
- ③ 修正が必要な場合は、一覧の『編集』ボタンをクリックし変更した後『修正』ボタンを押します。

時刻同期サーバの設定

---

NTPサーバアドレス/FQDN

時刻同期サーバ	コマンド
133.100.11.8	<a href="#">[編集]</a> <a href="#">[削除]</a>
133.31.30.8	<a href="#">[編集]</a> <a href="#">[削除]</a>

No.	項目	説明
1	NTPサーバアドレス/FQDN*	NTPサーバのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
2	追加ボタン	NTPサーバ情報を追加します。
3	修正	NTPサーバ情報を修正します。
4	一覧[編集]	修正を行うデータを表示します。
5	一覧[削除]	NTPサーバ情報を削除します。

## 6-5 ファームの自動アップデート（未サポート）

最新ファームウェアのバージョンをインターネット経由で確認し、最新のものが存在すれば自動的にアップデートを行います。ファームウェアのアップデート終了後は再起動を行って下さい。

- ① 設定メニューから、『管理機能』『ファームの自動アップデート』をクリックします。
- ② 本製品がインターネットに接続されている事を確認し『実行』ボタンを押します。
- ③ アップデート用サーバに最新のファームが存在する場合は自動的に更新されます。



ファームウェアのアップデート中に電源スイッチをOFFにすると、機器が正常に動作しなくなる恐れがありますので絶対に行わないでください。

- ④ アップデート終了のメッセージ表示後に、電源 OFF/ON を行って下さい。

ファームの自動アップデート	
ファームウェアの更新情報があれば自動的に最新版にアップデートします。	
ファームウェアバージョン	3.3.2-A
リリース日	2005/07/19
<input type="button" value="実行"/>	
自動アップデート中は絶対に電源を抜かないで下さい。 ファームのアップデートには、数分かかります。 (インターネットの速度により、5-10分かかる場合もあります。)	

No.	項目	説明
1	ファームウェアバージョン	インストールされているファームウェアバージョンが表示されます。
2	リリース日	ファームウェアのリリース日が表示されます。
3	実行	自動アップデートを実行します。

## 6-6 ファームの手動アップデート

ローカル PC 内のファームウェアファイルを指定し、端末のアップデートを行う場合に利用します。

- ① 設定メニューから、『管理機能』『ファームの手動アップデート』をクリックします。
- ② アップデートするファームウェアファイルを入力します。
- ③ 『設定』ボタンを押します。



ファームウェアのアップデート中に電源スイッチをOFFにすると、機器が正常に動作しなくなる恐れがありますので絶対に行わないでください。

- ④ アップデート終了のメッセージ表示後に、電源 OFF/ON を行って下さい。

ファームの手動アップデート

---

指定したファームウェアにアップデートします。

ファームウェアバージョン	3.3.2-A
リリース日	2005/07/19

No.	項目	説明
1	参照*	アップデートするファームウェアのアドレスを入力するか、参照ボタンを押下し選択します。
2	設定	アップデートを行います。

## 6-7 設定のバックアップ

本製品の現在の設定ファイル、またはエラー解析用のログファイルを出力します。

- ① 設定メニューから、『管理機能』『設定のバックアップ』をクリックします。
- ② バックアップファイルの種類を選択します。
- ③ 保存時のファイル名を入力します。
- ④ 『実行』ボタンを押します。

設定のバックアップ

---

種別  設定のバックアップ  ログのバックアップ

保存ファイル名

No.	項目	説明
1	種別	バックアップするファイル種別を選択します。
	<input checked="" type="radio"/> 設定のバックアップ	装置の設定情報ファイルのバックアップを取得します。
	<input type="radio"/> ログのバックアップ	端末内の全てのログを取得します。 ※メーカーエラー解析用ファイルです
2	保存ファイル名	出力するファイル名を入力します。 入力しない場合は自動的に設定されます。
3	実行	バックアップを実行します。

## 6-8 設定のリストア

『6-7 設定のバックアップ』で取得した設定ファイルより、設定のリストアを行います。

※『設定のバックアップ』で取得した設定ファイル以外をリストアしないでください。

- ① 設定メニューから、『管理機能』『設定のリストア』をクリックします。
- ② リストアするファイルを入力します。
- ③ 『実行』ボタンを押します。

設定のリストア

リストアファイル

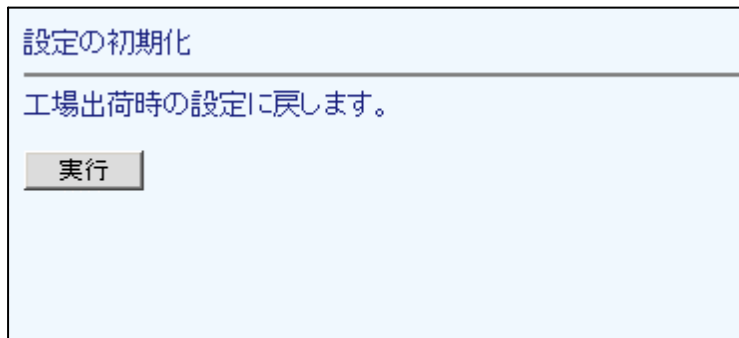
※バックアップから作成したファイル以外をリストアしないでください。

No.	項目	説明
1	参照*	リストアするファイルのアドレスを入力するか、参照ボタンを押下し選択します。
2	設定	リストアを行います。

## 6-9 設定の初期化

本製品を工場出荷時の状態に戻します。設定した情報は全て消去されます。

- ①設定メニューから、『管理機能』『設定の初期化』をクリックします。
- ②『実行』ボタンを押します。  
STATUS 0～3 が点灯します。
- ③ 初期化されるとSTATUS 0～3 が消灯しますので電源スイッチをOFF/ONしてください。  
※初期化後のアドレス／ポートは192.168.0.100 : 18080になります。



No.	項目	説明
1	実行	初期化を行います。



初期化が完全に終わる前に電源スイッチを OFF すると、機器が正常に動作しなくなる恐れがありますので、絶対に行わないでください。

## 7章 設定情報を確認する

### 7-1 ルータ設定情報の確認

設定情報一覧を表示します。各タイトルから、設定画面に移動することができます。

- ① 設定メニューから『情報』『ルータ設定情報』をクリックします。
- ② 現在設定されている項目が表示されます。
- ③ PPPoE 接続を利用している場合は、『再接続』ボタンを押すことで PPP の再接続を行います。

ルータ設定情報			
◆WANポートの設定			
PPPoEセッション名	IPアドレス	ID	コマンド
プライマリセッション	未接続	U-ID@ppp.net	再接続
セカンダリセッション	未接続	U-ID2@server.net	再接続
◆LANポートの設定			
IPアドレス	192.168.0.100		
サブネットマスク	255.255.255.0		
◆DHCPサーバの設定			
貸し出しアドレス	192.168.0.128～(126個)		
プライマリDNS	192.168.0.100		
セカンダリDNS			
◆プロキシDNSの設定			
プロキシDNS使用			
◆QoSの設定			
QoS未使用			



IP 電話利用中の PPPoE 再接続は、通話が切断されますので絶対行わないでください。

No.	項目	説明
1	WAN ポートの設定	WAN ポートの設定が表示されます。 ・ PPPoE 利用の場合 現在本製品に割り当てられているアドレスと、設定した ID が表示されます。 「再接続」ボタンを押すことで、PPPoE リンクの切断→接続を行います。 ※再接続の際、その時点での ID、パスワードの設定情報が反映されます。 ・ 固定 IP アドレス利用の場合 設定した IP アドレスとデフォルトゲートウェイが表示されます。 ・ DHCP 利用の場合 現在本製品に割り当てられている IP アドレスとデフォルトゲートウェイが表示されます。
2	LAN ポートの設定	LAN ポートの設定が表示されます。
3	DHCP の設定	DHCP サーバの設定が表示されます。
4	プロキシ DNS の設定	プロキシ DNS の設定が表示されます。
5	QoS の設定	QoS の設定が表示されます。



## 7-2 IP電話設定情報の確認

IP電話番号、番号ルール、システム利用ポートの設定情報を確認できます。  
各タイトルから、設定画面に移動することができます。

- ①設定メニューから『情報』『IP電話設定情報』をクリックします。
- ②現在設定されている項目が表示されます。

IP電話設定情報				
◆IP電話設定				
接続先	SIPサーバIP/FQDN	SIPドメイン名	接続モード	登録番号
EG2004TX-BRI	101.1.1	101.1.1	Server	2個 [番号一覧表示]
SkyIP-PBX	192.168.10.180	192.168.10.180	Server	050XXXX1111
FUSION IP-Phone	61.114.168.10	fusion.sip.0038.net	Server	番号なし
SkyIP-PBX	192.168.1.200	192.168.1.200	Server	012345678
◆ダイヤルアウト(発番選択)設定				
対象番号	発番号	発サブアドレス		
09XXXX1111	081111			
◆発信付加プレフィックスの設定				
プレフィックス	変換文字列			
	未登録			
◆SIP着信拒否番号の設定				
対象番号	拒否番号	返送エラーコード		
		未登録		
◆ISDN着信拒否番号の設定				
対象番号	拒否番号			
	未登録			
◆システム利用ポート				
利用用途	プロトコル	ポート番号(NT)	ポート番号(TE)	
音声制御ポート(Local SIP)	UDP	5060	5062	
音声利用ポート(RTP,RTCP)	UDP	11000-11199	12000-12199	
アドレス解決ポート(STUN)	UDP	5210		
HTTPポート	TCP	18080		
リモートアクセスポート(SSH)	TCP	22		

No.	項目	説明
1	IP電話設定	IP電話番号の設定情報が表示されます。『番号一覧表示』をクリックすると、各サーバの登録番号一覧が表示されます。
2	発番選択設定	ダイヤルアウトの設定情報が表示されます。
3	発信付加プレフィックスの設定	発信付加プレフィックスの設定が表示されます。
4	SIP着信拒否番号の設定	IP網(PBXポート)の着信拒否番号の設定が表示されます。
5	ISDN着信拒否番号の設定	ISDN(PSTNポート)の着信拒否番号の設定が表示されます。
6	システム利用ポート	本製品で設定されているポートが表示されます

## 7-3 サーバ接続状況の確認

登録した番号の SIP サーバ接続状況を表示します。

接続失敗のサービスは利用することが出来ませんので、設定及び接続の確認を再度行ってください。

- ① 設定メニューから『情報』『SIP サーバ接続状態』をクリックします。
- ② 再接続ボタンを押すことで IP電話の設定、番号ルールの設定、基本設定（ISDNポートの設定） がその時点の設定情報に更新されます。

SIPサーバ接続状態		
電話番号	ステータス	時刻
192.168.10.180		
050XXXX1111	起動完了	06/17-10:39:08
<input type="button" value="更新"/> <input type="button" value="再接続"/> <input type="button" value="削除"/>		



IP 電話利用中の再接続は通話が切断されますので絶対行わないでください。

No.	項目	説明
1	接続先	接続先 SIP サーバの IP アドレス/FQDN が表示されます。
2	ステータス	登録した電話番号のステータスとその更新時刻が表示されます。 ※REGISTER を行わない場合は『起動完了』が表示されます。 <b>赤字</b> の場合はエラーで正常に接続ができていません。 ※設定（パスワードなど）を再度確認してください。  接続成功：通話が可能な状態です。 <b>接続失敗</b> ：何らかの原因で接続が出来ていません。 ※サーバからのレスポンス有り <b>認証失敗</b> ：ID またはパスワードが間違っています。 ※サーバからのレスポンス有り <b>未接続</b> ：接続を行ったがサーバからの応答がありません ※サーバからのレスポンス無し 非表示：一度もサーバへのアクセスを行っていません。 ※再起動を行っても未表示の場合は設定ミス、または内部的なエラーです
3	更新	表示内容を更新します。 ※ボタンを押さなくても登録件数分のステータス表示がされるまで自動更新されます。
4	再接続	接続先に再接続（REGISTER 送出）を行います。 IP 電話の設定、番号ルールの設定、基本設定（ISDN ポートの設定）がその時点の設定情報に更新されます。 ※U A の再起動を行うため通話が切断されますのでご注意ください。
5	削除	接続先に登録削除（UN-REGISTER 送出）を行います。

## 7-4 通話履歴の確認

過去一週間の着信および発信履歴を確認することができます。

- ①設定メニューから『情報』『通話履歴』をクリックします。
- ②表示したいデータ、日時、時刻を選択し『表示ボタン』を押します。

**通話履歴**

対象モード       NTモード    TEモード

対象データ       着信    発信

対象日付        6月17日 ▼

対象時刻        00 ▼ 時00分 ~ 23 ▼ 時59分

◆表示オプション

詳細表示

◆出力オプション

文字コード       EUC    S-JIS

No.	項目	説明
1	対象モード	表示するログのモードを選択します。 ※ISDNポートに異なる接続モードが設定されている場合に表示されます。
	<input checked="" type="radio"/> NTモード	NTモードのログを表示します。
	<input type="radio"/> TEモード	TEモードのログを表示します。
2	対象データ	表示するログを着信/発信から選択します。
	<input checked="" type="radio"/> 着信	着信ログを表示します。
	<input type="radio"/> 発信	発信ログを表示します。
3	対象日付	表示対象となる日時を選択します。過去7日分表示することが可能ですが、通話履歴が無い日は一覧に表示されません。
4	対象時間	対象日時の表示時間を限定したい場合、設定します。
5	詳細表示	チェックを入れるとPBXとSIPの変換番号詳細が表示されます。 ※ダイヤルイン、アウトの設定による関連付けを表示します。
6	文字コード	ログをファイル出力する際の文字コードを指定します。
	<input checked="" type="radio"/> EUC	EUCコードで出力します。
	<input type="radio"/> S-JIS	S-JISコードで出力します。
7	表示	選択した通話ログを画面表示します。
8	出力	選択した通話ログをテキストファイルとして出力します。

## 発信ログ (ISDN 側 ⇒ SIP 側)

本製品から発信した履歴を表示します。(ISDN 側から SIP<IP 網>側に向けた通話)

発信ログ									
発信履歴 04月08日 [00:00 - 23:59] 1件									
相手側			自機(発信)側						
相手番号	サブ	PBX送信番号 (発信番号)	サブ	→	発信番号	ch	開始時間	通話時間	ステータス
5614	284			→	333	2	20:53:19	-	キャンセル

戻る 更新

No.	項目	説明
1	相手番号/サブアドレス	ダイヤルした相手番号を表示します。
2	PBX 送信番号/サブアドレス	ISDN 側の自番号(発番号)を表示します。
3	発信番号	実際に発信した IP 電話の ID を表示します。
4	チャンネル番号	発信チャンネルを表示します。
5	開始時間	発信時間を表示します。
6	通話時間	通話時間を表示します。
7	ステータス	通話ステータスを表示します。

## 着信ログ (SIP 側 ⇒ ISDN 側)

本製品に着信した履歴を表示します。(SIP<IP 網>側から ISDN 側に向けた通話)

着信ログ												
着信履歴 04月08日 [00:00 - 23:59] 1件												
相手側				自機(着信)側								
相手番号	サブ	→	PBX送信番号 (相手番号)	着信番号	着信サブ	→	PBX送信番号 (着信番号)	サブ	ch	開始時間	通話時間	ステータス
5614	284	→	5614	333		→			1	20:59:57	0m0s	正常[自分切断]

戻る 更新

No.	項目	説明
1	相手番号/サブアドレス	着信時の相手番号を表示します。 ※[P]または[]は非通知です。
2	PBX 送信番号	ISDN 側 (PBX) へ送信した相手番号(発番号)を表示します。
3	着信番号/サブアドレス	着信した IP 電話の ID を表示します。
4	PBX 送信番号/サブアドレス	ISDN 側 (PBX) へ送信した自分番号(着番号)を表示します。
5	チャンネル番号	発信チャンネルを表示します。
6	開始時間	着信時間を表示します。
7	通話時間	通話時間を表示します。
8	ステータス	通話ステータスを表示します。

## 7-5 PPPoE 接続状態の確認

PPPoE を使用した場合、PPPoE の接続、切断、エラーの情報を表示します。

PPPoE 以外の接続方法の場合、ログは表示されません。

※端末の時刻補正をおこなってご利用ください。

- ① 設定メニューから、『情報』『PPPoE 接続状態』をクリックします。
- ② 表示するログの種類を選択します。
- ③ 『表示』ボタンを押します。

PPPoE接続履歴

---

接続/切断履歴  
 エラーログ

表示

---

```

Jun 16 13:46:16 PPPoE Link up ppp0 [2...37]
Jun 16 13:46:41 PPPoE Link up ppp1 [2...3]
    
```

No.	項目	説明
1	表示ログ種別	表示するログの種類を選択します。
	<input checked="" type="radio"/> 接続/切断履歴	PPPoE の接続、切断、付与アドレス履歴が表示されます。
	<input type="radio"/> エラーログ	PPPoE エラー履歴が表示されます。
2	表示	選択した PPPoE ログを画面に表示します。

## 7-6 ISDN 情報の確認

現在の ISDN ポート設定情報とステータスが表示されます。

更新ボタンを押すと表示内容がその時点の状態に更新されます。

- ① 設定メニューから、『情報』『ISDN 情報』をクリックします。
- ② 表示を更新したい場合は、『更新』ボタンをクリックします。

LAP-D設定			
ISDNポート	I/F	接続モード	TEI
ISDN0ポート	P-MP	NT	DYNAMIC
ISDN1ポート	P-MP	NT	DYNAMIC
PSTNポート	P-MP	TE	DYNAMIC

ISDNポートステータス			
ISDNポート	レイヤ1 ステータス	TEI	レイヤ2 ステータス
ISDN0ポート	接続済		-
ISDN1ポート	未接続		-
PSTNポート	接続済	69	接続済

Bチャンネルステータス		
ISDNポート	BCH	レイヤ3 ステータス
ISDN0ポート	B1	未使用
	B2	未使用
ISDN1ポート	B1	未使用
	B2	未使用
PSTNポート	B1	未使用
	B2	未使用

更新

No.	項目	説明
1	L A P - D 設定	本製品に現在設定されている L A P - D 情報を表示します
	I/F	設定されているレイヤ1 起動種別が表示されます。
	接続モード	設定されている接続モードが表示されます。
	TEI	TEI の動作モードが表示されます STATIC : P-P の場合。静的割り当て DYNAMIC : P-MP の場合。動的割り当て
2	I S D N ポートステータス	現在の ISDN ポート (レイヤ1, 2) の情報を表示します。
	レイヤ1 ステータス	PBX が接続されている場合『接続済』と表示されます。 PBX が接続できていない場合『未接続』と表示されます。
	TEI	割り当てられた TEI を表示します。 ※P-MP 呼毎接続の場合、TEI 値は表示されません
	レイヤ2 ステータス	PBX と通信ができていない場合『接続済』と表示されます。
3	Bチャンネルステータス	現在のBチャンネル (レイヤ3) の情報を表示します。 通話を行っている場合は『通話中』状態になります。 利用していない場合は『未使用』になります

## 7-7 ISDN 通信履歴の確認

本製品と PBX 間の通信履歴 (ISDN Q.931 プロトコル) を表示します。

- ① 設定メニューから、『情報』『ISDN 通信履歴』をクリックします。
- ② 表示したいデータ、表示タイプ、表示順、ログを選択します。
- ③ 画面に表示する場合は、『表示』ボタンをクリックします。
- ④ テキストファイルに出力する場合は、『出力』ボタンをクリックします。

ISDN通信履歴						
対象データ	<input checked="" type="radio"/> NTモード	<input type="radio"/> TEモード				
表示タイプ	<input type="radio"/> HEX表記	<input checked="" type="radio"/> 日本語略式				
中継ログ	<input type="checkbox"/> 表示する					
表示順	<input checked="" type="radio"/> 最新順	<input type="radio"/> 時間順				
表示ログ	<input checked="" type="checkbox"/> 最新ログ	<input type="checkbox"/> 過去ログ1	<input type="checkbox"/> 過去ログ2			
◆出力オプション						
文字コード	<input checked="" type="radio"/> EUC	<input type="radio"/> S-JIS				
<input type="button" value="表示"/> <input type="button" value="出力"/>						
日付/時刻	方向	呼番	回線	B-CH	メッセージ	付加情報
01/01 00:00:25					システム起動	コールマネージャ起動/再起動
01/01 00:00:25					システム起動	コールマネージャ起動/再起動

No.	項目	説明
1	対象データ	表示するログのモードを選択します。 ※ISDN ポートに異なる接続モードが設定されている場合、表示されます。
	<input checked="" type="radio"/> NTモード	NTモードのログを表示します。
	<input type="radio"/> TEモード	TEモードのログを表示します。
2	表示タイプ	ログの表示を HEX 表記/日本語略式から選択します。
	<input type="radio"/> HEX 表記	ログを HEX 表記のまま表示します。 表示詳細は ISDN Q.931 プロトコルの技術参考資料をご参考ください。
	<input checked="" type="radio"/> 日本語略式	ログを日本語に置き換えて表示します。
3	中継ログ	中継ログを表示します。
4	表示順	表示順を最新順/時間順から選択します。
	<input checked="" type="radio"/> 最新順	上が新しいログになります。
	<input type="radio"/> 時間順	下が新しいログになります。
5	表示ログ*	表示ログを選択します。 ログは3世代まで表示が可能で、最新のものから順次ローテーションされます。
6	文字コード	ログをファイル出力する際の文字コードを選択します。
	<input checked="" type="radio"/> EUC	EUCコードで出力します。
	<input type="radio"/> S-JIS	S-JISコードで出力します。
7	表示	選択した ISDN ログを画面に表示します。
8	出力	選択した ISDN ログをテキストファイルとして出力します。

## 7-8 機器情報の確認

機器の型番、ファームウェアバージョン、MACアドレスを確認することができます。

- ① 設定メニューから、『情報』『機器情報』をクリックします。

機器情報	
型番	EG2004TX-BRI
ファームウェアバージョン	3.3.2-A
リリース日	2005/07/19
MACアドレス(WAN)	00:60:5F:53:00:0F
MACアドレス(LAN)	00:60:5F:53:00:0E

No.	項目	説明
1	型番	機器の型番が表示されます。
2	ファームウェアバージョン	インストールされているファームウェアバージョンが表示されます。
3	リリース日	ファームウェアのリリース日が表示されます。
4	MAC アドレス (WAN)	本製品の WAN ポートの MAC アドレスが表示されます。
5	MAC アドレス (LAN)	本製品の LAN ポートの MAC アドレスが表示されます。

☆ ☆ ☆



## ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2005 アライドテレシスホールディングス株式会社

## 商標について

CentreCOM はアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

INS ネット 64、ダイヤルインは日本電信電話株式会社の登録商標です。

SkyIP-PBX はスカイウェイブ株式会社の商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェア、周辺機器、サービスの名称などは、各メーカーの商標または登録商標です。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。


この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

## 廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

## 日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

 0120-860442

月～金（祝・祭日を除く） 9:00 ～ 17:30

## マニュアルバージョン

2005 年 9 月 Rev. A 初版（第 1.2 版、2005.07.25、Ver. 3.3.2-A）

